

Accuphase

SUPER AUDIO CD PLAYER



SUPER AUDIO CD



スーパーオーディオCDプレーヤー

DP-85

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早めになるべく10日以内に^①ご返送ください。お客様カードと引きかえに^②品質保証書^③をお届けいたします。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

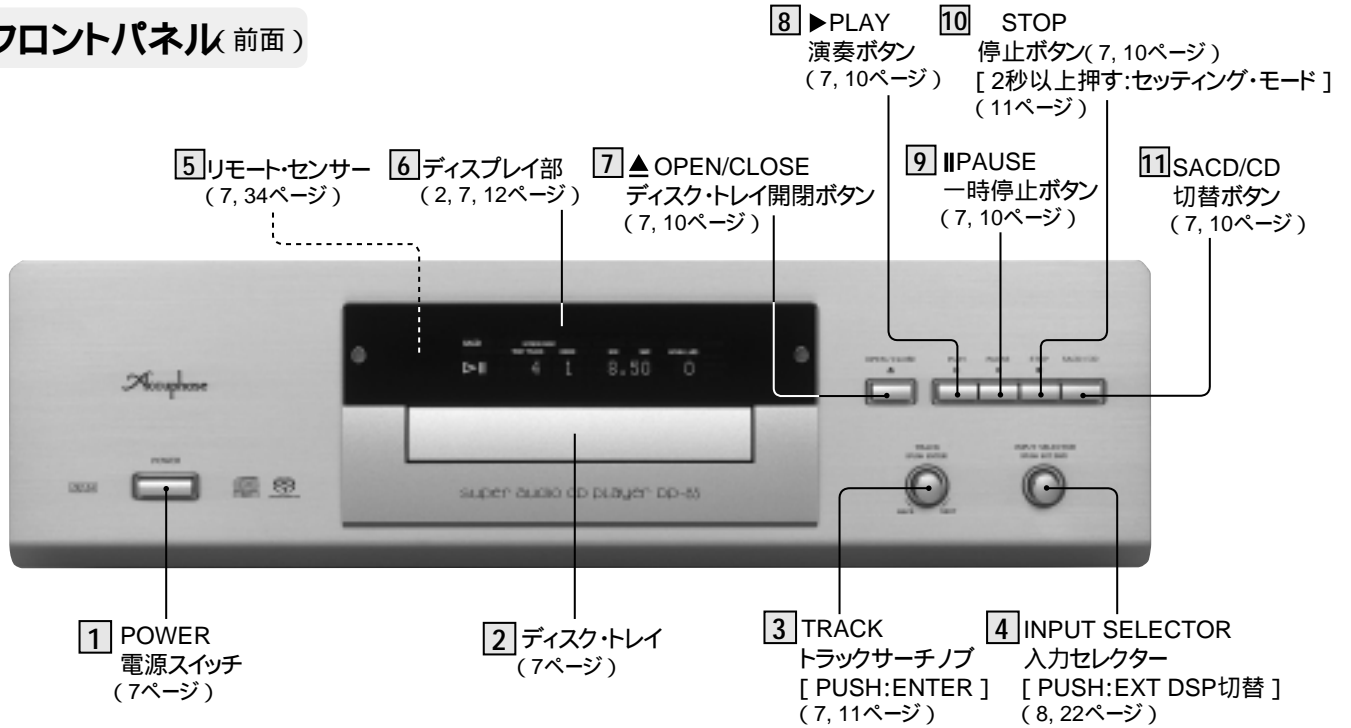
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
ディスプレイ部 / リモート・コマンダー	2
2. ⚠警告 安全上必ずお守りください	3
お使いになる前に / 付属品を確認します	3
⚠注意 / 使用上の注意	4
接続上の注意	5
DP-85の録音について	5
本機で再生できるディスク	5
3. 接続図	6
4. 各部の動作説明	7 ~ 9
5. ご使用方法	
通常のSACD/CDプレーヤーとして使用する場合	10 ~ 19
演奏の基本操作	10
機能設定: セッティング・モードの切替	11
(ディスプレイの明るさ / 電源ON時の動作 自動ポーズの時間 / 変更した機能を初期設定に戻す)	
ディスプレイ部	
再生中のディスプレイ	12
ストップ(停止)状態でのディスプレイ	12
ディスプレイ・モードの切替	12
TEXT情報のディスプレイ	13
いろいろな演奏方法	
途中で演奏を中止するには	14
演奏を直に開始しないとき	14
トラック(曲)を指定して演奏	14
曲の途中の演奏したい部分を探す	15
リピート(繰り返し)演奏	16, 17
シャッフル演奏	17
プログラム演奏	18, 19
DP-85のトランスポートを活用する接続例	
DC-330に接続	20
DP-85とDC-330, DF-35をデジタルで接続	21
DC-101に接続	21
デジタル・プロセッサとして使用する場合	22
SACD/CD, MD, DATなどをデジタル入力で演奏	23
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	24
DG-28の接続	
デジタルでの接続例	25, 26
アナログでの接続例	27
6. DP-85を活用するオプション	28 ~ 32
オプションの取り付け方法	33
7. リモート・コントロール	34
8. 保証特性	35
9. 特性グラフ	36
10. ブロック・ダイアグラム	37
11. 故障かな?と思われるときは	38
12. アフターサービスについて	39

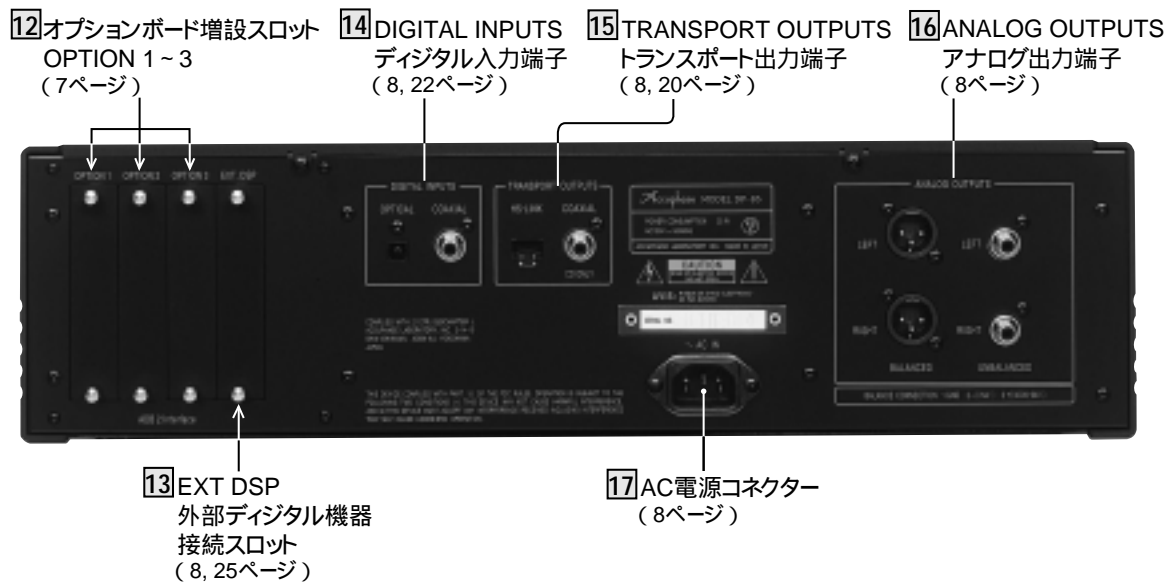
1. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

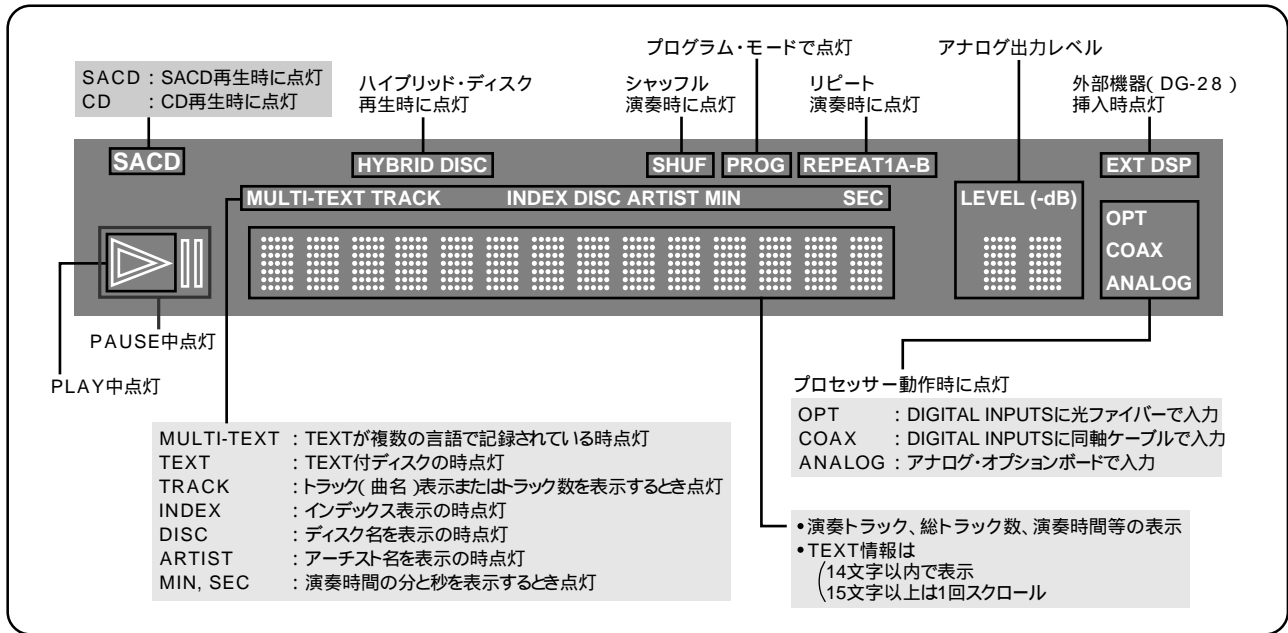


リアパネル(後面)



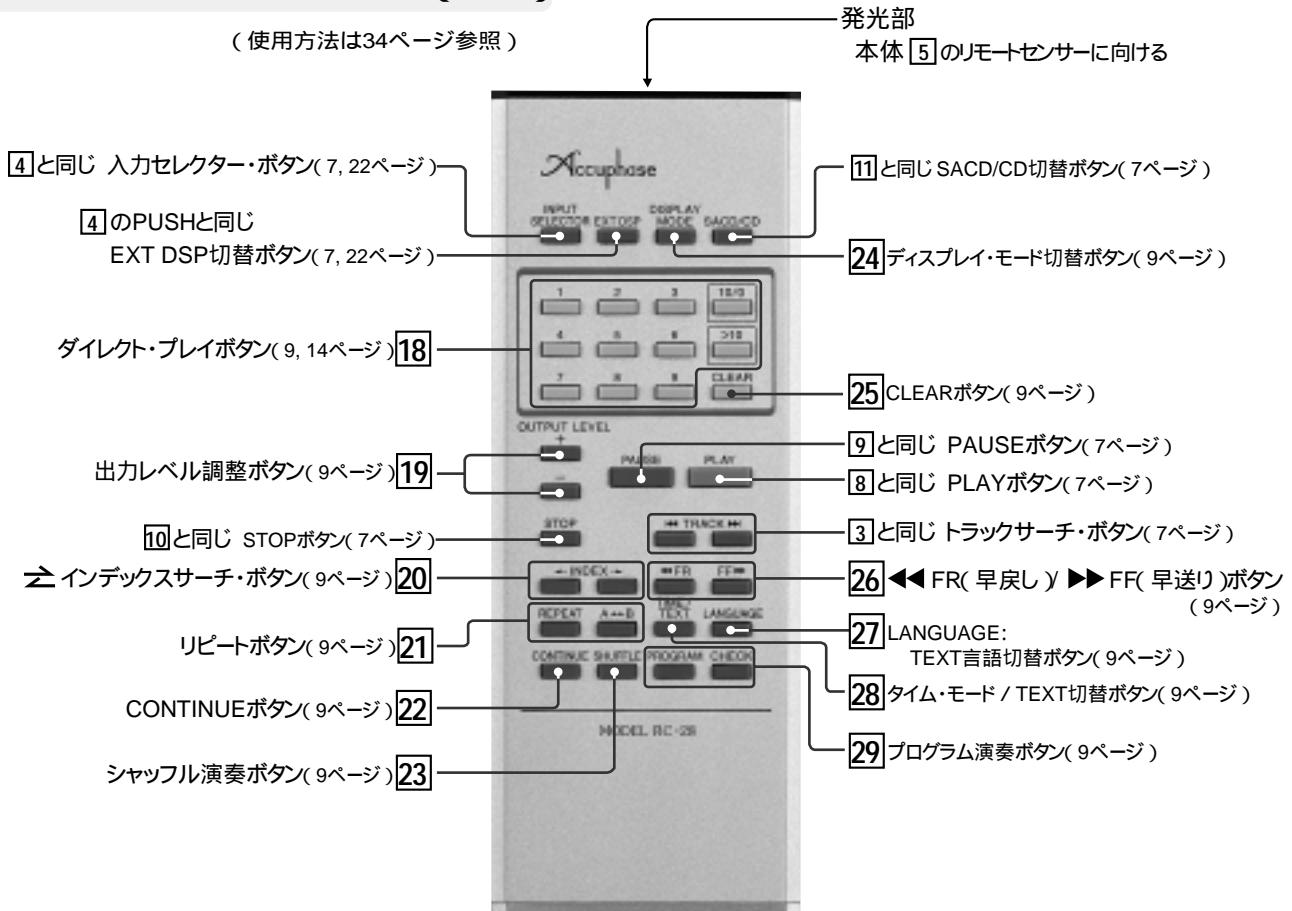
6 ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)

12ページ参照



リモート・コマンダー RC-28(付属)

(使用方法は34ページ参照)



2. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様直接はできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。

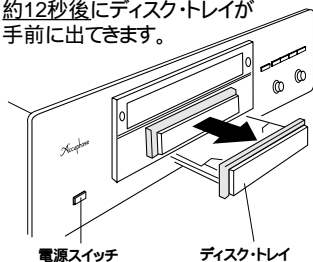
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨などや燃えやすい物)が入った場合。

故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。落としたり、破損した場合。

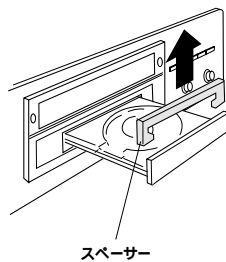
お使いになる前に

レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前にスペーサーを図のようにはずしてください。

電源スイッチを入れると、約12秒後にディスク・トレイが手前に出てきます。



スペーサーをはずします。



付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
プラグ付オーディオ・ケーブル(1m)	1組
単4乾電池	2個
リモート・コマンダー RC-28	1個

注意

設置場所について
必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

レーザー光源をのぞき込まない。
レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

入出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行なってください

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)刺が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れないでください。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。
ノイズ発生などの原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。
樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

音量の調整について

SACDは、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。音が出ていないときでも、不用意に音量を上げると、ノイズが出たり、思わぬ大音量が出て、アンプやスピーカーを破損する場合があります。

演奏を始める前は、大音量にならないように必ず音量を小さくしておいてください。

HS-Linkケーブルの接続

HS-Linkの接続は、HS-Linkコネクタを装備しているオーディオ機器にHS-Linkケーブルで入力してください。

- 必ず当社別売のHS-Linkケーブルを使用してください。
- 誤ってコンピューターのLAN等に使用すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

使用上の注意

光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラス一面に水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいますが、CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

ストーブなど、暖房器具をつけた直後。

湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき。
冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき。

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

~ ディスクの取り扱いについて ~

直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。

演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。

レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。

ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。

ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

本体のお手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

接続上の注意

DP-85は一体型SACD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とプロセッサー部を完全に分離し、それぞれを単独で使用できる入・出力端子を装備しています。また、オプション・スロットを装備していますので、デジタル入力/録音出力端子など用途に応じて、オプション・ボードを増設してください。

DP-85をSACD/CDトランスポートとして使用する場合
.....20, 21ページ
DIGITAL OUTPUTSからDC-330,DC-101等と接続します。

注意: HS-Linkコネクターからは、SACD/CDのデジタル信号が出力されます。COAXIAL端子からは、CDのデジタル信号のみ出力されます。

DP-85をデジタル・プロセッサーとして使用する場合
.....22, 23ページ
デジタル機器をDIGITAL INPUTS端子に入力します。または、増設したオプション・ボードのデジタル入力端子とデジタル機器を接続します。

DP-85とDG-28との組み合わせについて
デジタル接続の場合..... 25, 26ページ
アナログ接続の場合..... 27ページ

オプション・ボードは28～32ページを参照してください。

DP-85の録音について

SACDのデジタル録音

著作権保護のため、SACDのデジタル録音はできません。

SACDのアナログ録音

DP-85をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。

* 増設したオプション・ボードのアナログ出力端子からは録音できません。

CDのデジタル録音

DIGITAL OUTPUTSのCOAXIAL(同軸)端子、または増設したオプション・ボードのデジタル出力端子とMD, CD-R, DAT等を接続します。.....24ページ

* HS-LinkからのCDデジタル信号は録音できません。
* デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により第1世代だけになります。

CDのアナログ録音

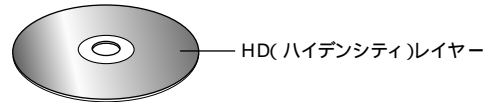
DP-85をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。

または増設したオプション・ボードのアナログ出力端子から録音します。

* HS-LinkでDC-330,DC-101等に接続したとき、そこに増設したオプション・ボードのアナログ出力端子から録音はできません。

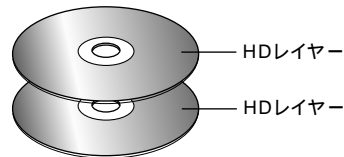
本機で再生できるディスク

SACD : シングルレイヤー・ディスク



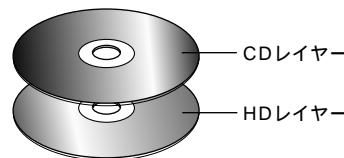
HD(ハイデンシティ)レイヤー
HD(ハイデンシティ)レイヤー単層のSACDです。
HDレイヤーは、SACD用の高密度信号層です。

SACD : デュアルレイヤー・ディスク



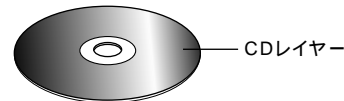
HDレイヤー
HDレイヤー
HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSACDです。
片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SACD+CD : ハイブリッド・ディスク



CDレイヤー
HDレイヤー
HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
SACD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



従来フォーマットのCDです。

本機で再生できないディスク

CD-ROM	DVD
DVD-Audio	CD-RW

誤って使用すると、エラーメッセージが表示されたり、ノイズが発生する場合があります。

CD EXTRA, CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしない場合があります。

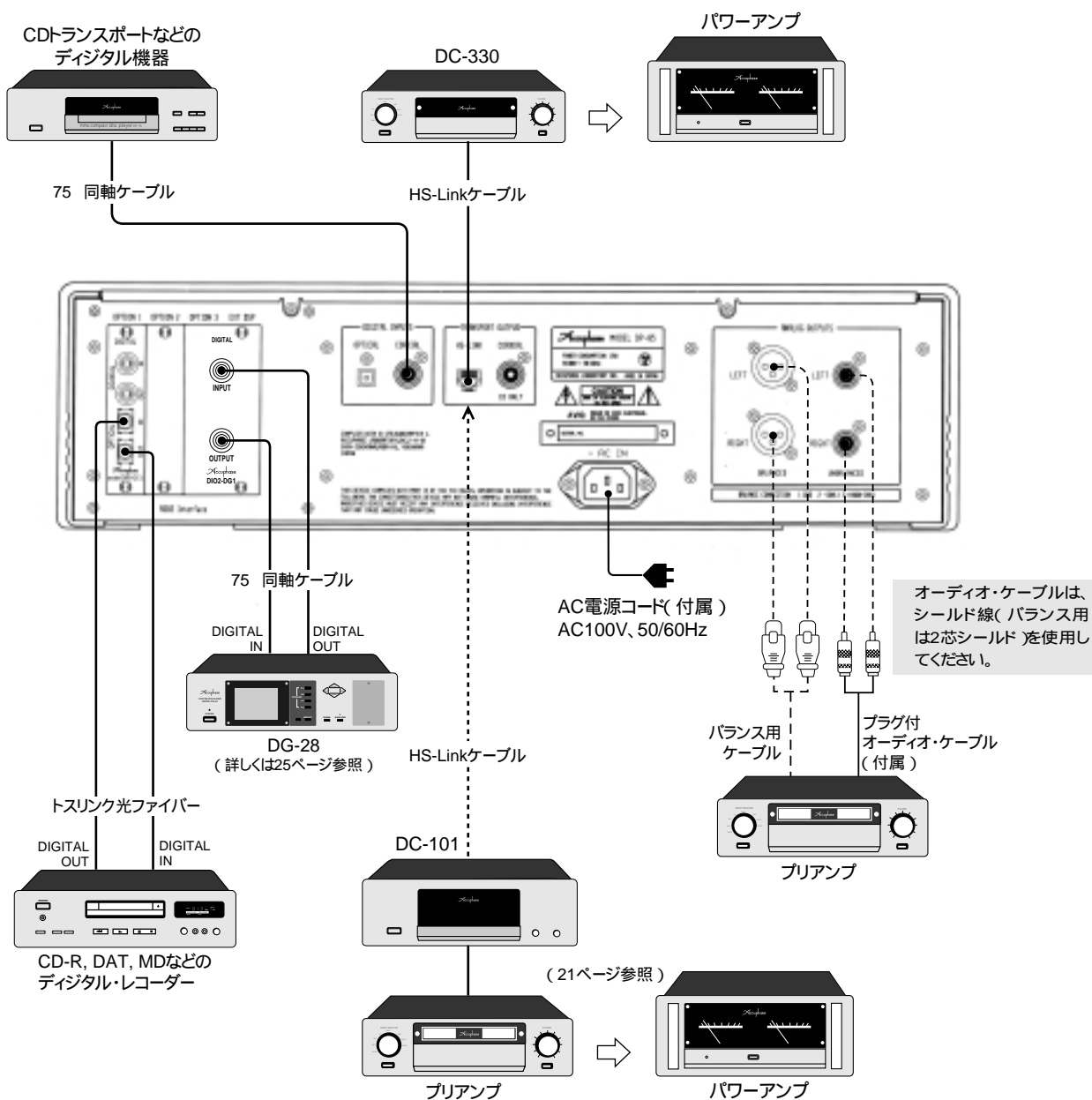
3. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

イラストはオプションを増設した場合の接続例です。

注意 アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左) RIGHT(右)を正しく接続してください。バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
デジタル機器との接続は、HS-Linkケーブル、75 同軸ケーブル、光ファイバーなどを使用します。

オプションの増設例(オプションの種類は28~32ページ参照)
OPTION 1 : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)
EXT DSP : DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード(DIO2-DG1)
(2スロット使用)



4. 各部の動作説明

詳しい使用方法は()内のページを参照してください。

1 POWER - 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

電源スイッチをOFFにすると、一部の機能(入力セレクター、EXT DSP、OUTPUT LEVEL等)を除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 ディスク・トレイ(10ページ)

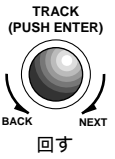
▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押すと手前に出てきます。ディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ **OPEN/CLOSE** ボタンをもう一度押すか、▶ **PLAY** ボタンを押すと閉じます。

3 TRACK(PUSH ENTER) トラックサーチ・ノブ(10ページ)


機能設定として使用する場合は11ページ参照

NEXT
右に回すと、次々と曲の頭へ飛びます。
(▶▶NEXTトラックサーチ・ボタンと同じ)

BACK
演奏中や一時停止の状態、左に回すとその曲の頭に戻ります。さらに回すと前の曲の頭へ飛びます。
(◀◀BACKトラックサーチ・ボタンと同じ)




PUSH ENTER
停止中にノブを回してトラックを選択した後、ノブを押すとそのトラックから演奏を始めます。




4 INPUT SELECTOR(PUSH EXT DSP) 入力セレクター

INPUT SELECTOR (PUSH EXT DSP)
ノブを回すとリアパネルの、DIGITAL INPUTS 端子及びオプション・スロットに入力された信号を選択
(22ページ参照)

* 付属のリモート・コマンダーRC-28でも同様に選択することができます。



INPUT SELECTOR (PUSH EXT DSP)
EXT DSP端子に接続した機器(DG-28)の信号をON/OFFします。
(25ページ)



5 リモートセンサー(34ページ)

付属のリモート・コマンダーRC-28の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーの発光部をここに向けてください。

6 ディスプレイ部(12ページ)

さまざまな情報を表示します。

7 OPEN/CLOSE ボタン(10, 14ページ)

押すとディスク・トレイが出てきます。もう一度押すと閉じます。

8 ▶ PLAY(演奏) ボタン(10, 14ページ)

演奏を開始するときに押します。

9 || PAUSE(一時停止) ボタン(10, 14ページ)

演奏を一時停止するときに押します。

10 STOP(停止) ボタン

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。(10, 14ページ)

停止中に2秒間以上押しつづけると、セッティング・モードに入り各種設定ができます。(11ページ)

11 SACD/CD ボタン(10ページ)

ハイブリッド・ディスクを再生するときに、SACDかCDを選択します。

押すたびに、ディスプレイ部のSACDとCD表示が切り替わります。

STOP(停止)中に切り替えます。

12 OPTION 1 ~ 3 オプション・ボード増設スロット

(23, 24, 28 ~ 33ページ)

デジタル入力/録音出力関係のオプション・ボードを増設するスロットです。

13 EXT DSP 外部デジタル機器接続スロット(25~27ページ)

デジタル入・出力ボードを増設します。外部デジタル機器を接続してINPUT SELECTORノブを押すと、この機器の信号をON/OFFすることができます。

* DG-28を接続すれば、デジタル信号での音場補正ができます。

14 DIGITAL INPUTS(22ページ)

本機をデジタル・プロセッサ部として使用する場合の入力端子です。外部デジタル信号を同軸ケーブル(COAXIAL)または光ファイバー(OPTICAL)で入力します。

15 TRANSPORT OUTPUTS(20ページ)

本機のトランスポート部を使用する場合の出力端子です。

HS-Link: SACD/CDデジタル出力端子

HS-LinkケーブルでDC-330やDC-101と接続します。SACD/CDボタンで選択したデジタル信号を出力します。

* 著作権保護のため、HS-Linkで出力された信号は、デジタル録音はできません。

COAXIAL(同軸): CDデジタル出力端子

CD専用のデジタル出力端子です。

75 同軸ケーブルで接続します。

16 ANALOG OUTPUTS アナログ出力端子

アナログ・プリアンプの入力端子と接続します。

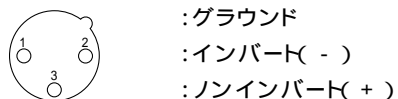
UNBALANCED(不平衡出力)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。

BALANCED(平衡出力)コネクター

バランス伝送用出力コネクターです。

ピンの極性は、次のようになっています。



バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

17 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

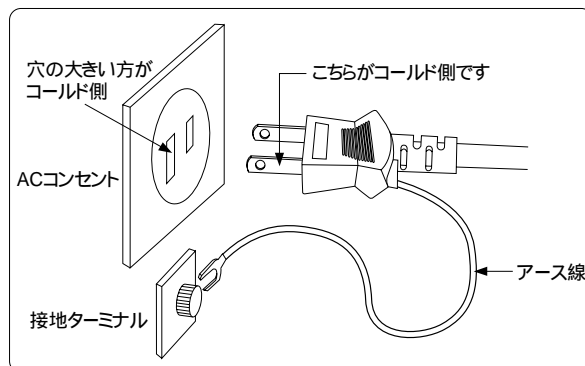


電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。接続する機器の極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合がありますが、合わせなくても実用上問題ありません。

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を厳密に管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示されることがあります。

18 **ダイレクトプレイ・ボタン**(14ページ)

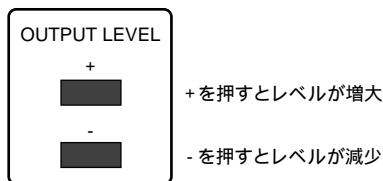
トラック番号を直接指定して演奏を開始させます。

19 **OUTPUT LEVEL:
出力レベル調整ボタン**

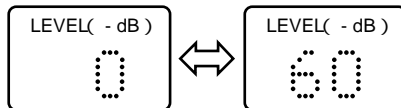
アナログ出力のレベルを調整します。

デジタル方式により、0dB ~ -60dB(1dBステップ)の可変ができます。

通常は0dBで使用します。



ディスプレイのレベル表示



(1dBステップ)

20 **INDEX:
インデックス・サーチボタン**(15ページ)

インデックス付ディスクの場合、そのインデックスの頭から演奏を始めることができます。

21 **リピート(繰り返し演奏)ボタン**(16, 17ページ)

REPEAT

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。

A↔B(指定区間の繰り返し演奏)

1曲中、指定区間の繰り返し演奏をします。

22 **CONTINUEボタン**(17, 18ページ)

シャッフルやプログラム再生中に押すと、通常の演奏に戻ります。

23 **SHUFFLE:シャッフル演奏ボタン**(17ページ)

シャッフル(ランダムに全曲を一回)再生になります。

24 **DISPLAY MODE:
ディスプレイON/OFFボタン**(12ページ)

ディスプレイ部の表示を消して演奏することができます。
プロセッサ動作の場合(22ページ参照)には、消灯できません。

25 **CLEAR**(19ページ)

プログラムした曲を削除します。

26 **◀◀FR(早戻し)▶▶FF(早送り)ボタン**
(15ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させ、曲の聴きたい部分を探します。

27 **LANGUAGEボタン**(13ページ)

複数の言語で記録されたTEXT付ディスクの場合、言語表示を切り替えます。

28 **TIME/TEXT:
タイム・モード/TEXT切替ボタン**(12, 13ページ)

押すたびに、曲の経過時間、残り時間、全曲の残り時間やTEXT情報等を表示します。

29 **プログラム演奏ボタン**(18, 19ページ)

PROGRAM

聴きたい曲だけをセレクトして、好きな順序で演奏を楽しむことができます。

CHECK(プログラム・チェック)

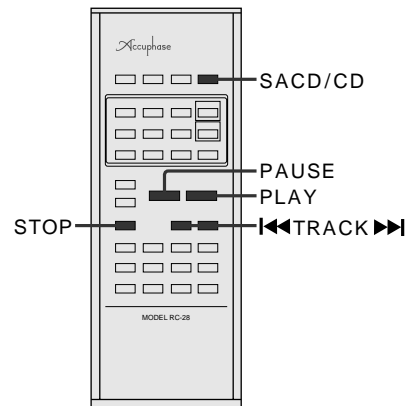
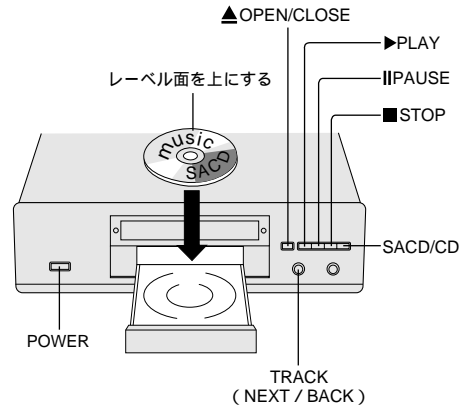
プログラムした曲の順番を確認します。

5. ご使用方法

通常のSACD/CDプレーヤーとして使用する場合

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 プロセッサー動作(ディスプレイ部が入力端子表示)になっている場合には、SACD/CDプレーヤー動作にします。
INPUT SELECTORノブを回す。
または▶[PLAY]、||[PAUSE]、[STOP]、[SACD/CD]ボタンのどれか一つを押す。
- 3 ▲[OPEN/CLOSE]ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをテーブルにのせます。
▲[OPEN/CLOSE]ボタンを押して、ディスク・トレイを閉じます。
- 5 ハイブリッド・ディスクの場合は[SACD/CD]ボタンを押して、SACDかCDを選択します。
押すたびに、SACDとCDの表示が切り替わります。
演奏するディスクの種類に合わせて、どちらかを選びます。
(ディスクの種類は、5ページを参照)
ハイブリッド以外のディスクは▶[PLAY]ボタンを押すと、自動的に選択して演奏が始まります。
- 6 ▶[PLAY]ボタンを押すと第1曲目から演奏がはじまります。
- 7 最後の曲の演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 8 ▲[OPEN/CLOSE]ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておいてください。



演奏中の基本操作

- 演奏停止 (ストップ) [STOP] ボタン
- 演奏を一時停止 (ポーズ) || [PAUSE] ボタン(ポーズ中は▶▶点灯)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶ [PLAY] ボタン(演奏中は▶▶点灯)
- 1曲先に進む TRACKノブをNEXT(右回し)または▶▶[TRACK] ボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る ... TRACKノブをBACK(左回し)または◀◀[TRACK] ボタン
- ディスクを取り出す ▲ [OPEN/CLOSE] ボタン

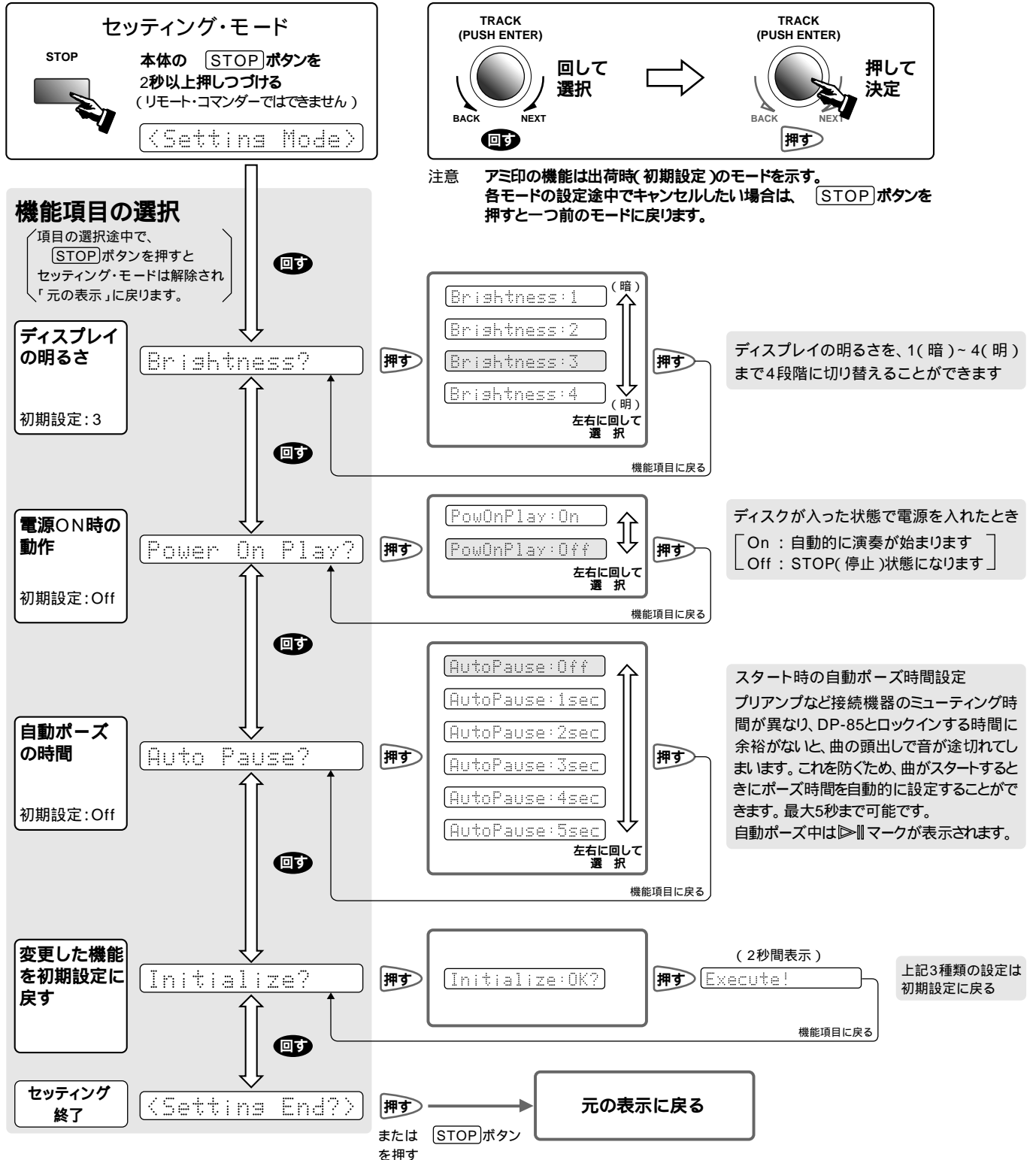
ハイブリッド(SACD+CD)ディスクの再生時に、聞きたい層を切り替える場合

[STOP] ボタンを押して一旦再生を止め、[SACD/CD] ボタンで希望の層を選択してください。

機能設定：セッティング・モードの切替

使用条件やお好みに合わせて、『ディスプレイの明るさ』『電源ON時のプレイ動作』『自動ポーズ』の各機能を、『出荷時の初期設定』から変更することができます。また、変更した機能を初期設定に戻すことができます。

本体の **[STOP]** ボタンを2秒以上押しつづけると、セッティング・モードに入り、TRACKノブで、各種機能の選択・変更ができます。



ディスプレイ部

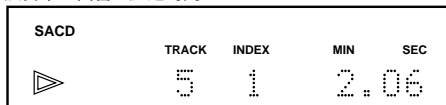
ディスプレイ部は、ディスクや再生中の曲に関するいろいろな情報を表示します。
ディスクのストップ状態や再生中などの状態によって、表示する内容が変化します。

再生中のディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFのディスクです)

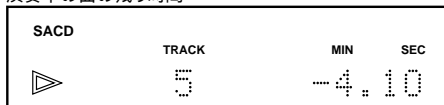
TIME/TEXT ボタンを押す

押すたびに、演奏中の曲番と経過時間 演奏中の曲の残り時間 ディスク全曲の残り時間を繰り返し表示します。

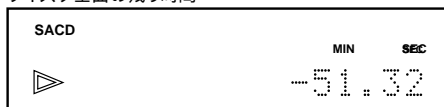
演奏中の曲番と経過時間



演奏中の曲の残り時間



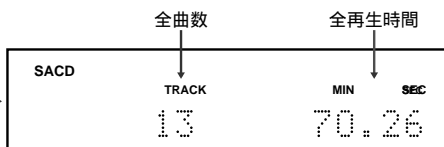
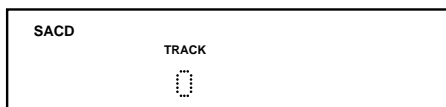
ディスク全曲の残り時間



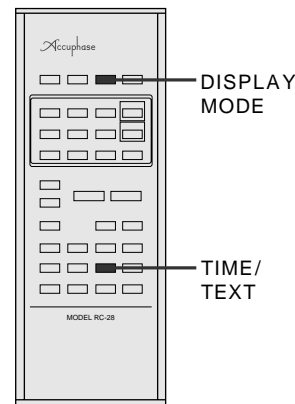
ストップ(停止)状態でのディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFのディスクです)

TIME/TEXT ボタンを押す

ディスクの全曲数と全再生時間を表示します。



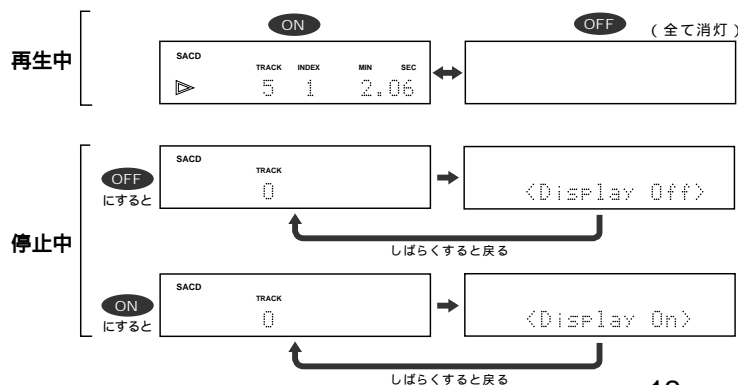
しばらくすると戻る



ディスプレイ・モードの切替

DISPLAY MODE ボタンを押すたびにディスプレイの点灯(ON)/消灯(OFF)が切り替ります。

OFFにして表示が消えるのは再生中のみで、再生を止めたり、一時停止の時は表示がつかます。
再び再生を始めると表示は消えます。



注意
プロセッサ動作の場合(22ページ参照)には、OFFにしてもディスプレイは点灯のままで消灯にはなりません。

演奏が始まると、全て消灯になります。

TEXT情報付ディスクのディスプレイ

TEXT付ディスクは、音楽信号の他にディスク名やアーティスト名などの情報が記録されています。

TEXT付ディスクを入れると、『TEXT』が点灯し、ディスク名を表示します。
TEXTの情報が15文字以上のときは、一度スクロール表示し、その後最初の14文字が表示されます。

複数の言語で情報が記録されている場合は、『MULTI-TEXT』が点灯します。

注意

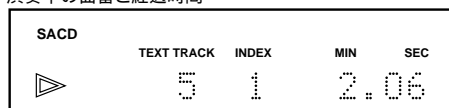
本機が表示できるのは、英数字だけです。日本語は表示できません。
ディスクによっては、表示できない文字があります。
本機が表示できるTEXT情報は、ディスク名、アーティスト名、曲名だけです。その他の情報は表示できません。

演奏中のディスプレイ

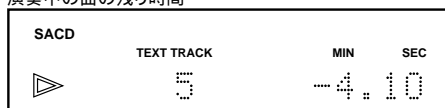
TIME/TEXT ボタンを押す

押すたびに下記の表示を繰り返し表示します。

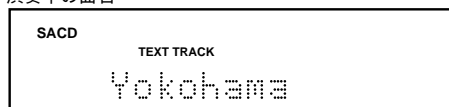
演奏中の曲番と経過時間



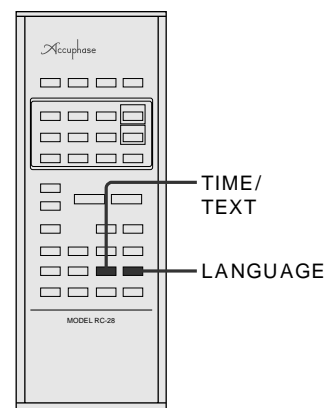
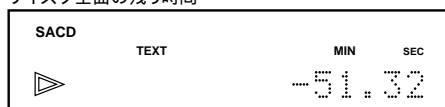
演奏中の曲の残り時間



演奏中の曲名



ディスク全曲の残り時間

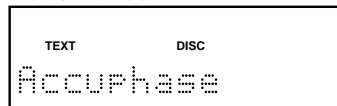


停止中のディスプレイ

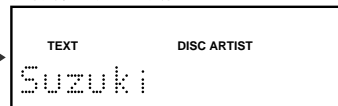
TIME/TEXT ボタンを押す

押すたびに、ディスク名 アーティスト名 全再生時間を繰り返し表示します。
アーティスト名表示のときは、『ARTIST』が点灯します。

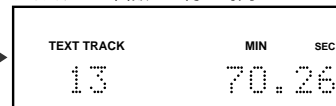
ディスクのタイトル



ディスクのアーティスト



ディスクの全曲数と全再生時間



TIME/TEXT を押す、又はしばらくすると戻る

複数の言語で記録されているディスクのTEXT情報

複数の言語で情報が記録されているディスクは、表示を切り替えて他の言語で見ることができます。

ディスクを入れると、『MULTI-TEXT』が点灯します。

停止中に**LANGUAGE** ボタンを押す。

現在選択されている言語名 (English, French, German など) が点滅表示します。

本機で表示することができない言語が記録されていた場合は、

< Other Lang. > と表示します。

さらに**LANGUAGE** ボタンを押して、希望の言語名を表示させる。

TIME/TEXT ボタンを押す。

選択した希望の言語で情報を表示します。

注意

TEXT付ディスクが、一つの言語だけで記録されている場合は、**LANGUAGE** ボタンを押したとき、その言語名を数秒間表示します。

TEXT付ディスクを演奏中に**LANGUAGE** ボタンを押すと、現在表示している言語名をしばらく表示します。

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

一時停止は

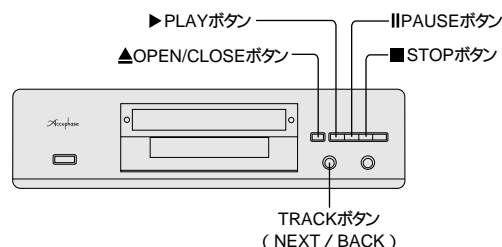
|| [PAUSE] ボタンを押します。▶|| マークが点灯して演奏は停止します。
一時停止を解除するときは、再度 || [PAUSE] ボタンまたは ▶ [PLAY] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

演奏を止めるには

■ [STOP] ボタンを押します。■ [STOP] ボタンを押した場合は、続きの演奏はできません。

ディスクを取り出すときは

演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押します。



演奏を直に開始しないとき

ディスクを置いてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

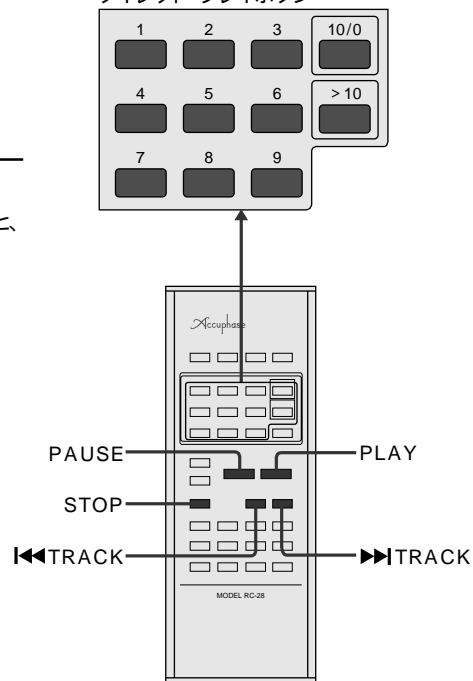
演奏中やポーズ(一時停止)ストップ状態のとき、**ダイレクト・プレイ** ボタンを使うと、指定の曲の頭から演奏を開始することができます。
トラック(曲)の番号を直接押して選曲します。

1	~	9	その番号の曲から演奏開始
10/0			10曲目を演奏
11曲目以降の演奏は >10 ボタンを使用します			
例: 15曲目の演奏	>10	→ 1 → 5
30曲目の演奏	>10	→ 3 → 10/0
100曲目の演奏	>10	→ >10 → 1 → 10/0 → 10/0

ディスクに入っている曲数以上の選曲はできません。

演奏中に、◀◀/▶▶トラックサーチ・ボタンを使って、任意の曲を選択します。
ポーズ(一時停止)中にダイレクトプレイ・ボタンを押すと、押した曲の頭でポーズのままになります。
ポーズ(一時停止)のとき、◀◀/▶▶トラックサーチ・ボタンを使って、任意の曲を選択し、▶ [PLAY] ボタンを押します。

ダイレクト・プレイボタン



曲の途中の演奏したい部分を探す

演奏中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

再生音が断続的に聞えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。
その部分から演奏を始めます。

ポーズ(一時停止)中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

再生音は聞えません。

時間表示をみながら、希望の部分に近づいたらボタンを離します。
その部分で一時停止になります。

インデックスで探す: インデックス・サーチ

演奏中または一時停止中に、インデックス・サーチ・ボタンを使用すると、希望のインデックス番号の先頭から演奏を始めることができます。

◀ INDEX ボタン

押すごとに、前のインデックスの先頭に戻ります。
一回押すと、演奏しているインデックスの頭に戻ります。

▶ INDEX ボタン

押すごとに、次のインデックスの先頭に進みます。
INDEXがないディスクの場合、INDEX番号は「1」を表示して演奏します。

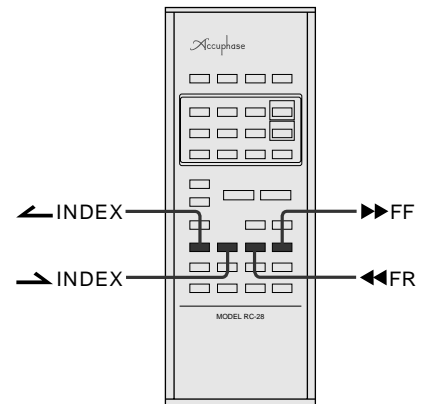
INDEXとは...

1曲の中で、いくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
インデックス付のディスクには、表示がついています。
インデックス・サーチは、インデックス付ディスクで有効です。

注意

ディスプレイに ◀Over!!▶ と表示されたときは...

最後の曲の終わりまで進んでいますから ▶▶ボタンまたは ◀◀FRボタンで戻してください。



リピート(繰り返し)演奏

ディスク全曲 / 1曲 / 指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。

シャッフル再生やプログラム再生のときでも可能です。
 全曲および1曲リピートは、本機の電源を切っても記憶されます。
 ただし、A Bリピートは、電源を切ると消去されます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

[REPEAT] ボタンを1回押して、▶ [PLAY] ボタンを押す。再生中でも可能です。
 ディスプレイ上に < Repeat > と表示され、『REPEAT』が点灯し、全曲リピートが始まります。

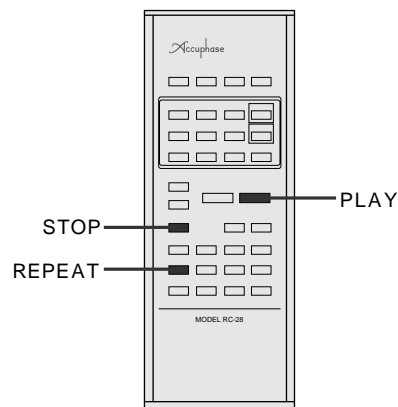
通常の再生の場合	全曲を順番に再生
シャッフル再生の場合	繰り返すたびに曲番が変わる
プログラム再生	プログラムの曲順に再生

全曲リピートを中断するには...

- [STOP] ボタンを押す。
- 再び ▶ [PLAY] ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには...

- [REPEAT] ボタンを2回押します。
- < Repeat off > と表示され、『REPEAT』が消灯し、全曲リピートは解除されます。



1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

繰り返したい曲の再生中に、< Repeat 1 > と表示されるまで [REPEAT] ボタンを繰り返し押す。
 『REPEAT1』が点灯して、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには...

- [STOP] ボタンを押す。
- 再び ▶ [PLAY] ボタンを押すと、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには...

- [REPEAT] ボタンを1回押します。
- < Repeat off > と表示され、『REPEAT1』が消灯し、1曲リピートは解除されます。

1 曲中の指定区間の繰り返し演奏: A↔Bリピート

1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し演奏することができます。

- 1 演奏中に、繰り返しの始点(A点)で **A↔B** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A』が点滅します。
- 2 そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で **A↔B** ボタンを押す。
『REPEAT A - B』が点灯し、A↔Bリピートが始まります。
▶▶FFボタンを使うと、手早くB点を決めることができます。

A↔Bリピートを中止するには...

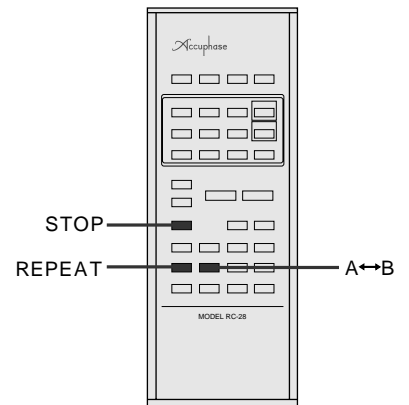
REPEAT ボタンまたは **STOP** ボタンを押すと、A↔Bリピートは解除されます。

繰り返す指定区間を変更し先に進めるには...

- 1 A↔Bリピート演奏中に **A↔B** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A』が点滅します。今の終点が始点(A点)に変わります。
- 2 そのまま演奏を続けて、新しい繰り返しの終点(B点)で **A↔B** ボタンを押す。
『REPEAT A - B』が点灯し、新たに指定したA↔Bリピートが始まります。

注意

1曲の範囲を超えて指定することはできません。



シャッフル演奏

ランダムに選曲し、全曲を1回ずつ演奏します。

- 1 **SHUFFLE** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『SHUF』が点灯します。
- 2 ▶ **PLAY** ボタンを押す。
シャッフル演奏が始まります。
次に演奏する曲が決まる間は、ディスプレイに『SHUFFLING!』と表示します。
全曲をランダムに1回ずつ演奏が終わると停止します。

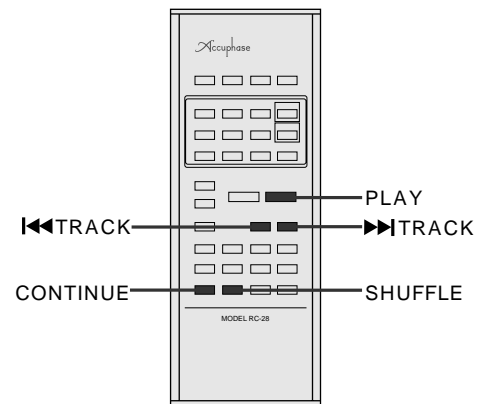
通常の演奏に戻すには...

CONTINUE ボタンを押す。

次に演奏する曲を頭出しできます。

- ▶▶ ボタンを押すと、次に演奏する曲の頭出しをします。
- ◀◀ ボタンを押すと、演奏している曲の頭に戻ります。すでに演奏が終わっている曲には戻りません。

REPEATとSHUFFLEを両方設定することができます。



プログラム演奏

自分でプログラムして、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。
プログラムには、32曲(または合計時間999分59秒)まで登録することができます。

プログラムするには

- 1 停止中に、**PROGRAM** ボタンを押す。

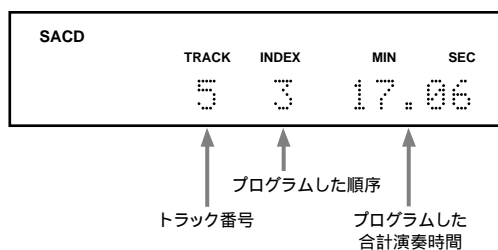
『PROG』が点灯してプログラム開始可能となります。
演奏中や一時停止中でもセットできますが、その過程は表示されません。

- 2 ダイレクトプレイ・ボタンを押して、曲番を入力する。

ボタンを押して曲番を入力すると、トラック番号、プログラムした順序、プログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。

曲番を押しまちがえたときは、**CLEAR** ボタンを押してもう一度入力します。

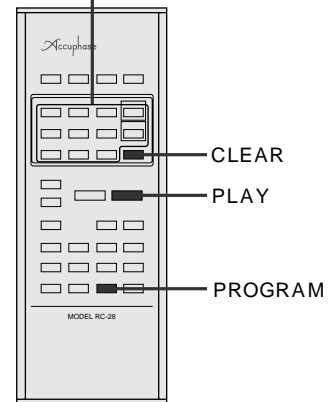
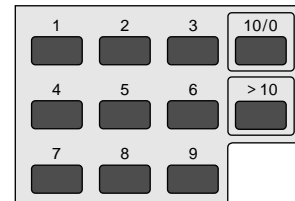
11曲目以降の入力は、**>10**を使用します。(14ページ参照)



- 3 プログラムが終わったら、▶ **PLAY** ボタンを押す。

プログラムした順序で演奏が始まります。

ダイレクト・プレイボタン



普通の再生に戻すには

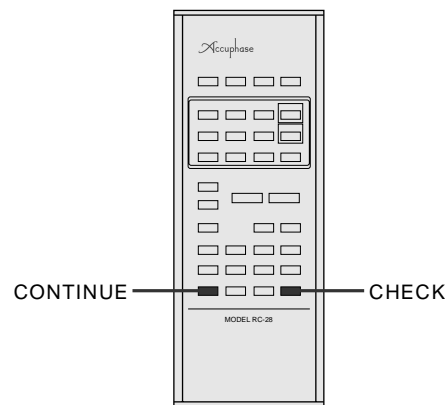
CONTINUE ボタンを押します。

プログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

演奏の前や演奏中に、**CHECK** ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲番とその曲の合計時間がディスプレイされます。演奏中はそれ以降の曲のプログラムから表示します。

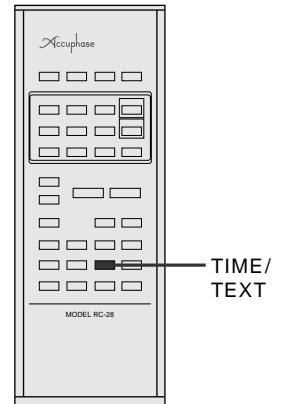
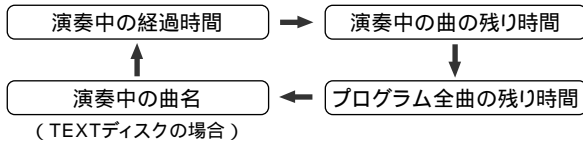
そのままにしておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。

プログラムした曲の最後になると **< Prog END >** と表示します。



プログラム演奏中に **TIME/TEXT** ボタンを押すと

押すたびに、下記のように繰り返し表示します。



プログラムした内容を変更する

演奏を始める前、または ■ **STOP** ボタンを押して停止中のとき、プログラムの内容を変更できます。

PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。

プログラムした途中の曲を削除したいときは

■ **STOP** ボタンを押します。

CHECK ボタンを使って削除したい曲番を表示させ、**CLEAR** ボタンを押します。

プログラムした最後の曲から削除する

CLEAR ボタンを押す。

押すたびに、プログラムした最後の曲から消えます。

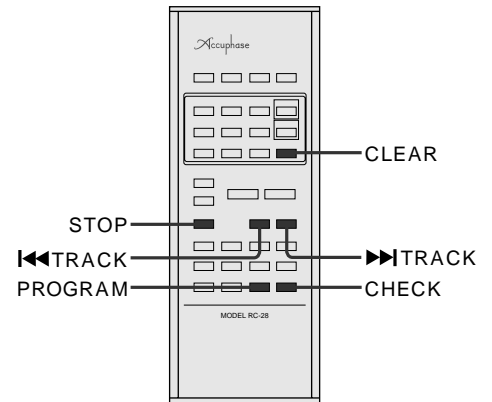
プログラムの最後に追加する

◀◀/▶▶トラックサーチボタンを押して追加したい曲を選びプログラム **PROGRAM** ボタンを押します。

または、リモート・コマンドーのダイレクト・プレイボタンで、追加したい曲番を押します。

セットしたプログラムをすべて削除したいときは

CLEAR ボタンを **< Prog CLEAR >** と表示されるまで押し続けます。



プログラム演奏のご注意

演奏が終ってもプログラムは残っています。▶ **PLAY** ボタンを押すと再び演奏が始まります。

本機の電源を切ったりディスク・トレイを開けるとプログラムは消えます。

プログラム演奏中に ■ **STOP** ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラムは解除されません。

プログラム演奏中に ◀◀BACK TRACK / ▶▶NEXT TRACK ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り / 送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。

プログラム演奏中にダイレクトプレイ・ボタンは作動しません。

REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A B REPEATはできません。

プログラム演奏中においても INDEX(インデックス)ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。

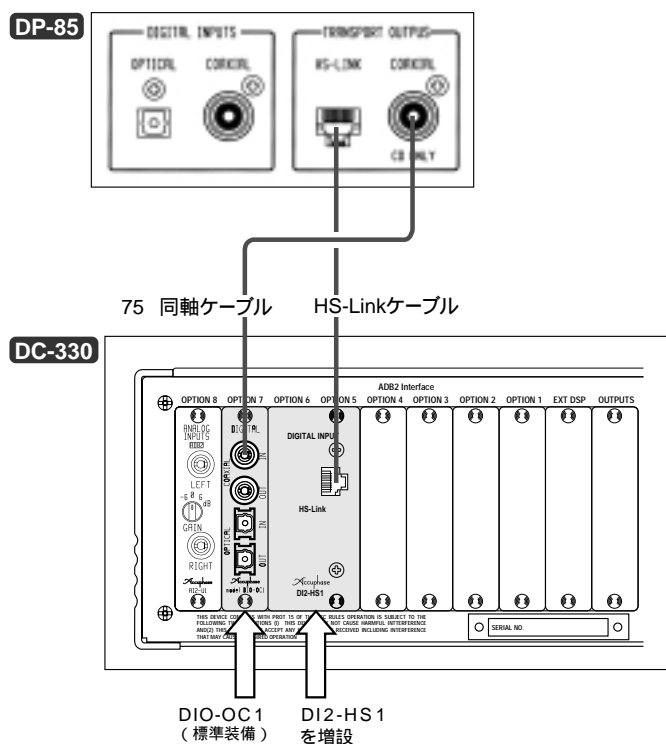
DP-85のトランスポートを活用する接続例

DC-330に接続

DP-85のTRANSPORT OUTPUTS端子とDC-330を接続します。

- * HS-Linkの接続でSACD/CDの演奏が可能です。但しHS-Linkで伝送した信号は、DC-330に増設したオプション・ボードから、デジタル/アナログとも録音はできません。
- * COAXIAL(同軸)端子はCDのみの演奏が可能です。また、DC-330に増設したオプション・ボードからの録音が可能です。
- * COAXIAL(同軸)端子は、直接デジタル・レコーダーと接続してCDのみの録音ができます。

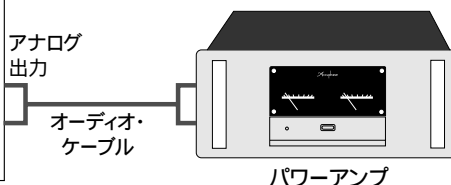
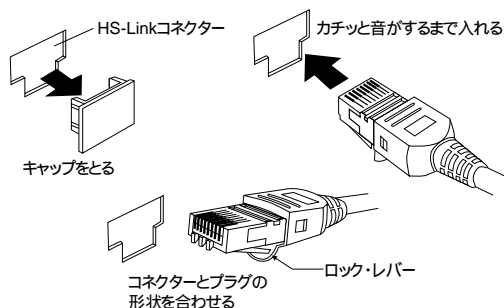
接続例



HS-Linkケーブルの接続

*HS-Linkケーブルは別売
(28ページ参照)

本体のHS-Linkコネクタのキャップを取り外し、HS-Linkケーブルのプラグを端子の形状に合わせて、カチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。抜くときは、プラグのロック・レバーを押しながら、軽く引き抜いてください。

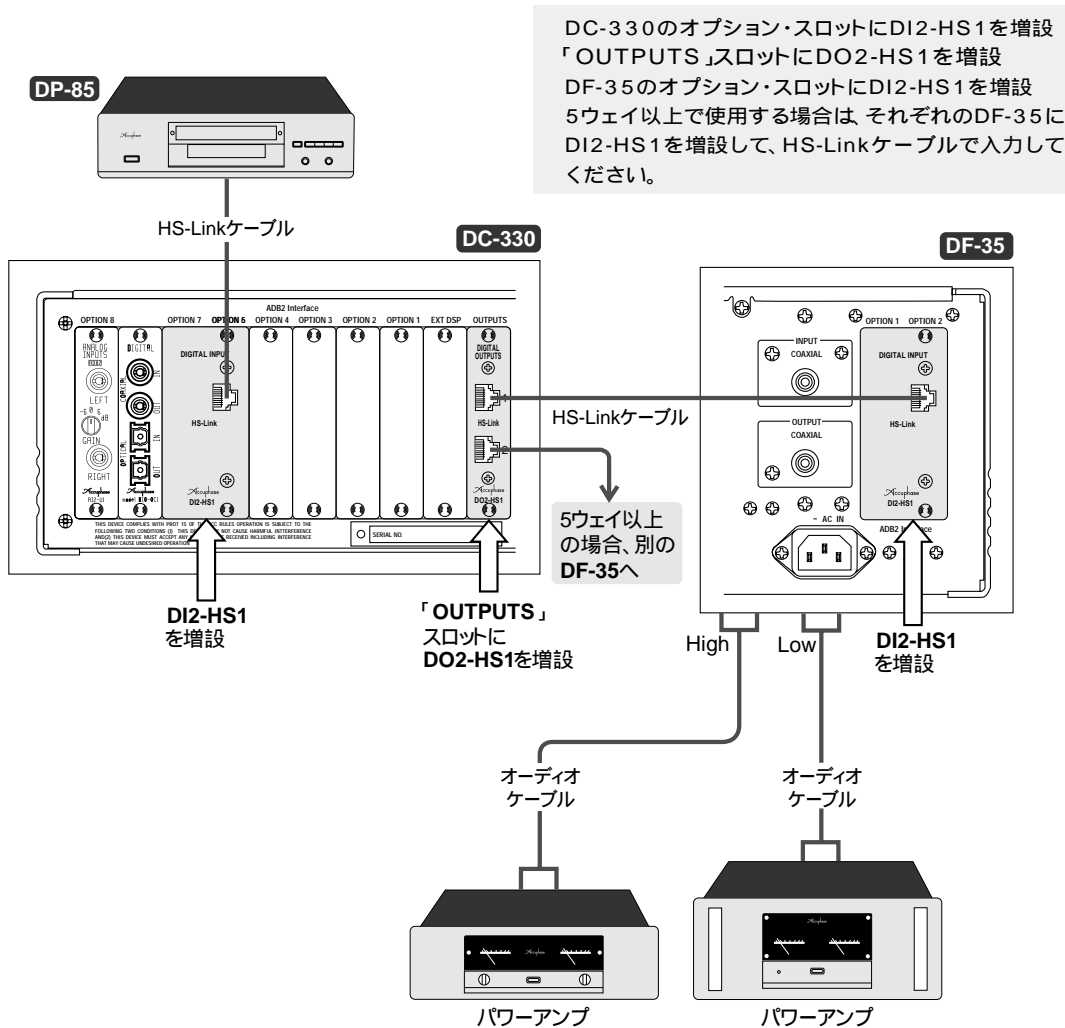


操作手順

- 1 本機と共にDC-330、パワーアンプの電源を“ON”にします。
- 2 DC-330の入力セレクターで、DP-85を接続した入力ポジションを選択します。
- 3 DP-85を演奏状態にして、DC-330のVOLUMEを上げると演奏が聞こえてきます。

DP-85とDC-330, DF-35をデジタルで接続

HS-Linkにより **DP-85** **DC-330** **DF-35** とパワーアンプ直前までデジタル接続でのマルチアンプ・システムが可能になります。それぞれの機種はHS-Linkケーブルで接続します。



注意

DC-330へHS-Linkで入力したSACD/CD信号は、HS-Linkだけしかデジタル伝送できません。したがって、「OUTPUTSスロット」にHS-Link以外のデジタル出力用ボード（DIO-OC1など）を増設しても、出力はありません。

DC-101に接続

HS-Linkでの接続例は6ページ参照

DP-85のTRANSPORT OUTPUTS端子とDC-101を接続します。

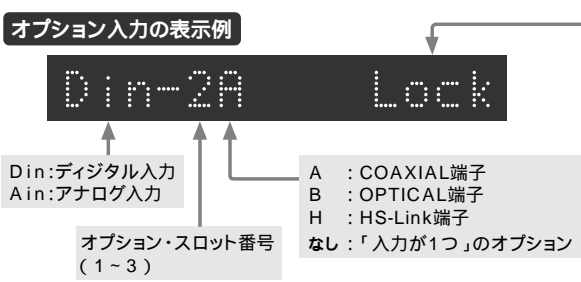
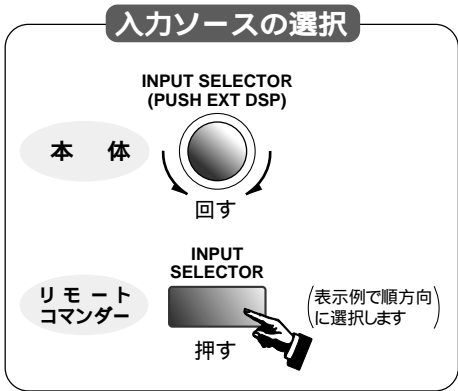
- * HS-Linkの接続でSACD/CDの演奏が可能です。但しHS-Linkで伝送した信号は、DC-101に増設したオプション・ボードから、デジタル/アナログとも録音はできません。
- * COAXIAL(同軸)端子はCDのみの演奏が可能です。また、DC-101に増設したオプション・ボードからの録音が可能です。

デジタル・プロセッサとして使用する場合

- 1 CDTトランスポート、MD、DATなどのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT端子または増設したオプションのINPUT端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れる。
- 3 本体のINPUT SELECTORノブを回す、またはリモートコマンダーのボタンを押して、接続した外部入力機器を選択します。入力信号をロックインすると2秒間と表示します。
- 4 外部入力機器の操作にて演奏をお楽しみ下さい。

注意
サンプリング周波数のレベル精度が変動する入力は、音が途切れることがあります。

SACD / CD動作に戻るにはINPUT SELECTORノブを回す。または▶、,
,ボタンのどれか一つを押す。



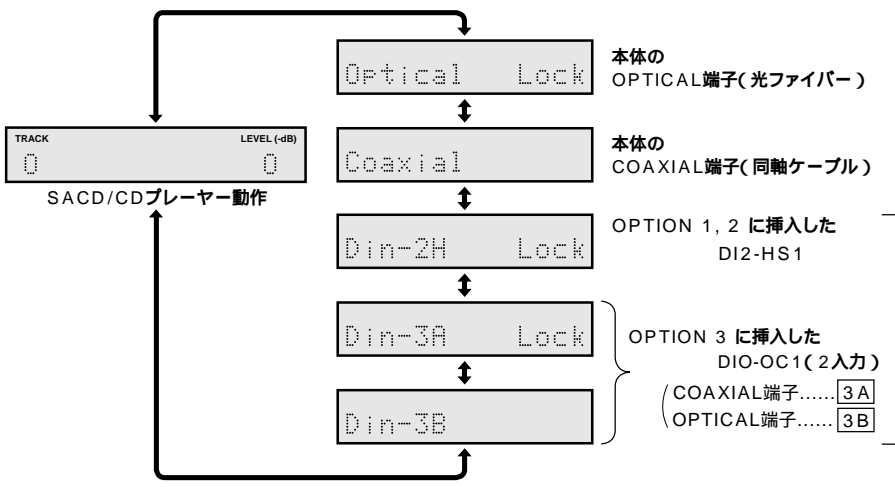
Lock表示
ロックインすると2秒間表示

Lock表示なし
入力端子に機器が接続されていないとき
入力信号にロックされないとき
ミュート動作中
(電源ON時や入力切替時)

入力ソースの表示例
(23ページのイラスト例参照)

Digital InputのOPTICAL端子 : 光ファイバーで接続
Digital InputのCOAXIAL端子 : 接続していない
OPTION 1, 2 (2スロット使用) : DI2-HS1 (HS-Linkケーブルで接続)
OPTION 3 (2入力) : DIO-OC1 (同軸ケーブルで接続
(光ファイバーは接続していない))

の場合



オプション・スロット番号の表示:
オプション・ボードを挿入してない場合や出力専用ボードの時は、スキップされ表示されません。

「2スロット」使用するボード(DI2-HS1)の場合
(OPTION 1, 2に挿入:スロット番号は"2H"を表示
(OPTION 2, 3に挿入:スロット番号は"3H"を表示

「入力1つ」のオプション(DI2-HS1以外)の場合には、
A, B, Hの英文字が消えて、
 の表示になります。

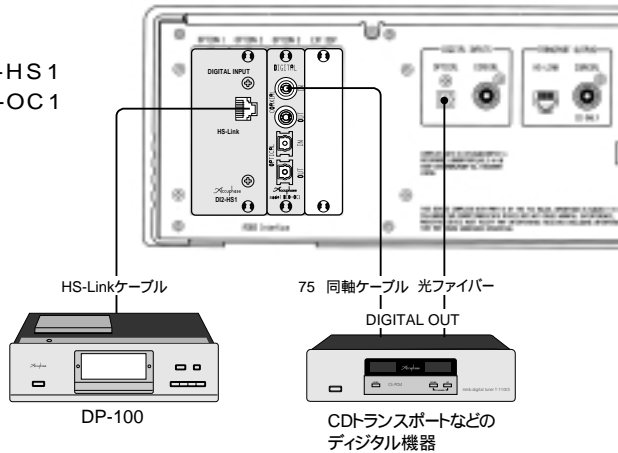
SACD/CD、MD、DATなどをデジタル入力で演奏

DP-100、CD、MD、DATなどをデジタルで接続します。

接続例

OPTION 1, 2 : DI2-HS 1
OPTION 3 : DIO-OC 1

DIGITAL INPUTSまたは
オプション・ボードのIN
↕
ソース側デジタル機器の
DIGITAL OUT



デジタル入力のあるオプション

デジタル入・出力ボード	[DIO-OC 1]
HPCコアキシャル入力ボード	[DI-BNC 1]
HPCオプティカル入・出力ボード	[DIO-ST 1]
AES/EBU入・出力ボード	[DIO-PRO 1]
	2スロット
HS-Link入力ボード	[DI2-HS 1]
	2スロット

操作手順

本機と共に入力機器、パワーアンプの電源を“ ON ”にします。
DP-85の入力セレクターで接続した入力端子を選択(22ページの表示例参照)します。
入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。

接続ケーブル

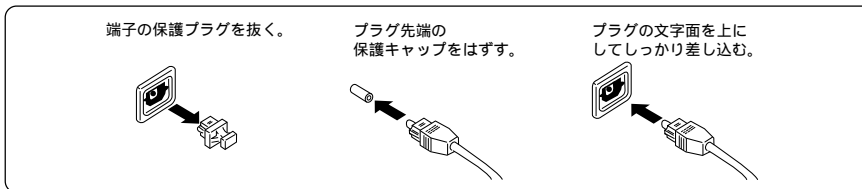
HS-Linkケーブルは20ページ参照。

COAXIAL DIO-OC 1

ピンプラグ付75 同軸ケーブル(別売:DL-15等)で接続してください。

OPTICAL DIO-OC 1

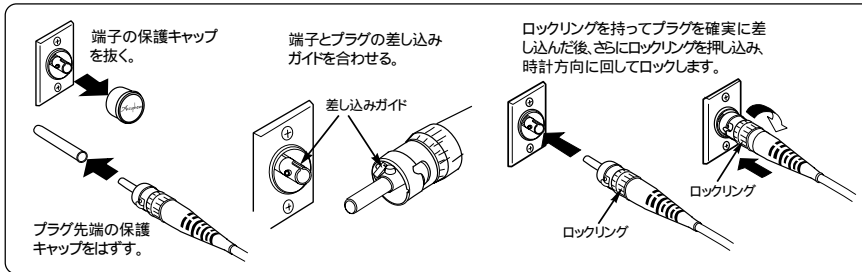
EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



HPC OPTICAL:ST DIO-ST 1

STタイプのHPC光ファイバー(別売:HLG-10等)で接続してください。

STは、AT&T社の登録商標です。



HPC:BNC DI-BNC 1

75 のBNCコネクター付同軸ケーブル(市販)で接続してください。

AES/EBU DIO-PRO 1

AES/EBU規格に対応したXLRコネクターで接続してください。
当社で、HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)を別売しています。

注意

光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。

光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

デジタル・レコ - ダ - で録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

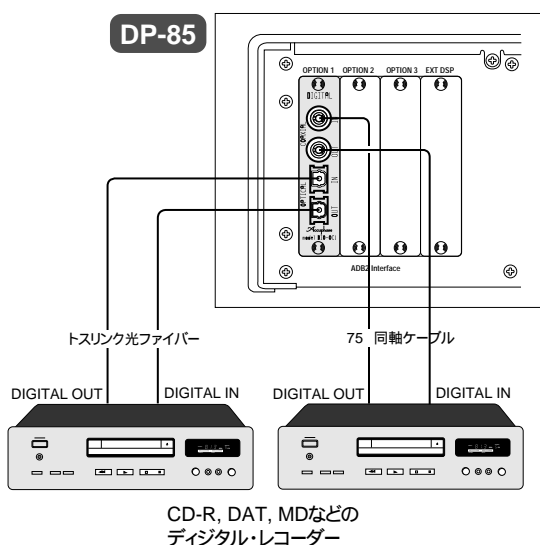
再生系が1系統ですから、録音中のモニターはできません。

各オプションのOUTPUTS端子には、INPUT SELECTORで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。

ただし、本機のSACD再生信号やHS-Linkで入力したSACD/CD信号は、各オプションのOUTPUT端子には出力されませんので、録音はできません。

接続例

オプション・スロットのDIGITAL" IN "端子 レコーダーの" DIGITAL OUT"
 オプション・スロットのDIGITAL" OUT "端子 レコーダーの" DIGITAL IN"



OPTICAL : 光ファイバーで接続

COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続

再生 : デジタル入力のあるオプション

HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]

録音・再生 : デジタル入・出力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]

HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]

AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

同一ボード内では、" IN "端子の入力信号は" OUT "端子に出力されません。

ただし、デジタル入・出力ボード[DIO-OC1]の場合、COAXIAL(同軸)に入力すれば、OPTICAL(光)に出力され、OPTICAL(光)に入力すれば、COAXIAL(同軸)に出力されます。

再生: プレイバック

レコーダーを再生状態にして、INPUT SELECTORで接続したソース(入力端子)に合わせれば再生音を聴くことができます。

録音: レコ - ディング

次の手順で操作をしてください。

録音したいプログラム・ソースをINPUT SELECTORで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

この信号がオプション・ボードの各OUTPUT端子からレコーダーへ出力されます。

レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のOUTPUT LEVELは、録音される音量には関係しません。

オプションのOUTPUT端子全てに同じ信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時録音も可能です。

注意

* デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。

* デジタル録音の場合、レコーダーの種類によって、録音側のサンプリング周波数を確認します。基本的には、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数が合わないと録音できません。

サンプリング周波数96kHz以上のソースは、レコーダーが対応していないと録音できません。

MD, CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)

DATは、ソース側の周波数を自動的に変換したり、追従して録音できる機種もありますので、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

DG-28の接続

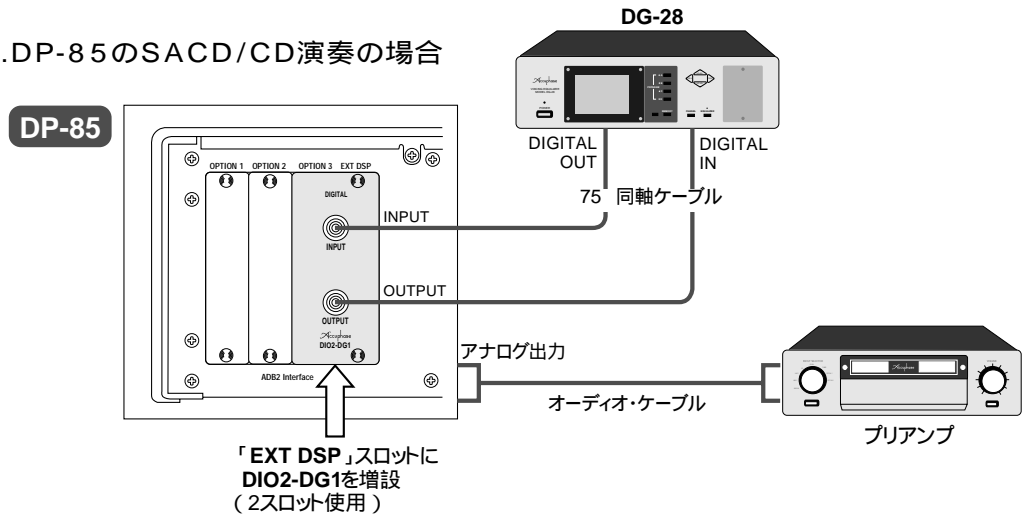
デジタルでの接続例

デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-28を接続して、デジタル信号での音場補正が可能になります。リアパネルEXT DSPオプション・スロットにデジタル入・出力ボード(DIO2-DG1)を増設します。DG-28を接続後は、INPUT SELECTORを押して、DG-28の接続をON/OFFすることができます。

注意 1 EXT DSPスロットに増設したボードに機器が接続されていない時、または信号をロックしない時は、INPUT SELECTORを押してONにすると、アナログ出力は途切れます。EXT DSPスロットにボードが増設されていない時は、INPUT SELECTORを押してもEXT DSPは作動しません。(出力は途切れません)

注意 2 DIO2-DG1は2スロット使用するため、左隣のOPTION 3も使用します。(ボードの詳細は31ページ参照) DIO-OC1、DIO-ST1をEXT DSPスロットに増設して接続した場合、CDのみの演奏になります。SACDはロックしません。

接続例 1 ...DP-85のSACD/CD演奏の場合



ディスプレイの表示例

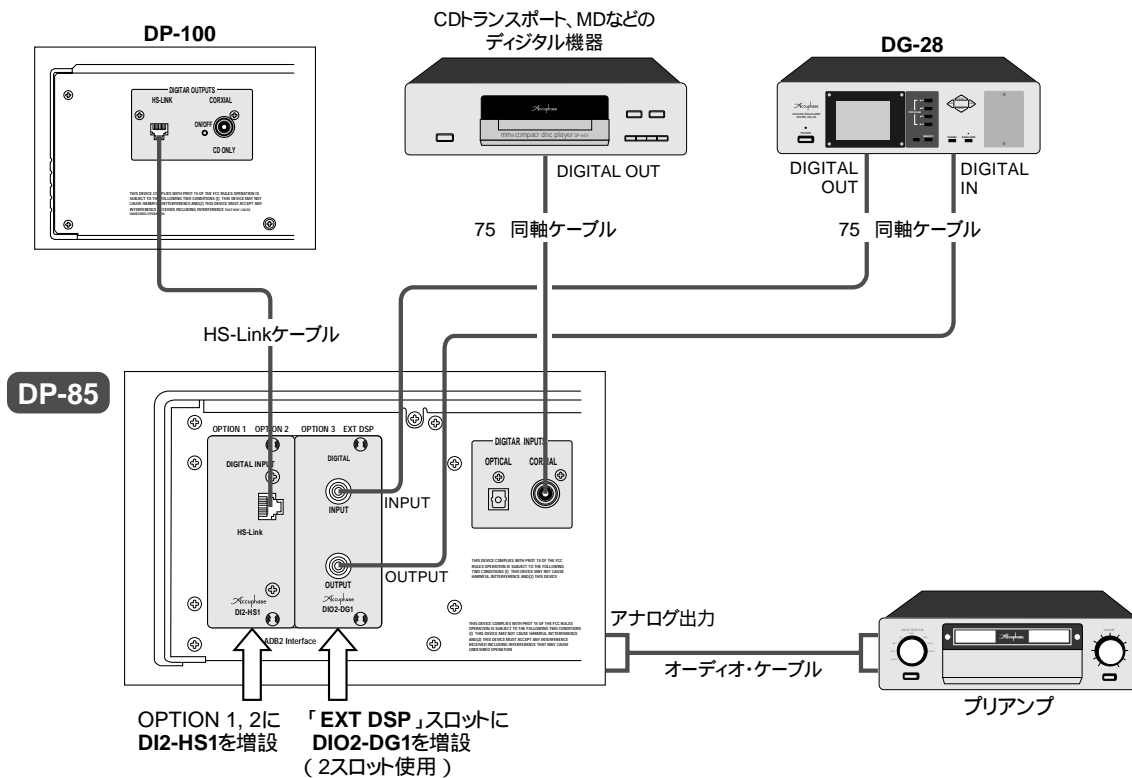
INPUT SELECTOR (PUSH EXT DSP)

押すたびにDG-28接続のON/OFFが切り替わる

押す: ON

EXT DSP				
<Ext.DSP Lock>				
EXT DSP 点灯 DG-28の接続 ON				
↓ (2秒後)				
TRACK	INDEX	MIN	SEC	LEVEL (-dB)
5	1	2.07		0
EXT DSP 点灯				
信号をロックしない場合 EXT DSPは点灯しますがアナログ出力は途切れます				
↓				
TRACK	INDEX	MIN	SEC	LEVEL (-dB)
5	1	2.08		0
EXT DSP 消灯 DG-28の接続 OFF				

接続例2 ...DP-85のデジタル・プロセッサ部を使用する場合



ディスプレイの表示例

INPUT SELECTOR
(PUSH EXT DSP)



回して入力ソースを選択(イラスト例はDP-100をHS-Linkで接続)
押すたびにDG-28接続のON/OFFが切り替わる

押す: ON

EXT DSP

Din-2H Lock

↓ (2秒後Lock消灯)

EXT DSP 点灯 DG-28の接続 ON

EXT DSP

Din-2H

信号をロックしない場合
EXT DSPは点灯しますがアナログ出力は途切れます

押す: OFF

EXT DSP

Din-2H

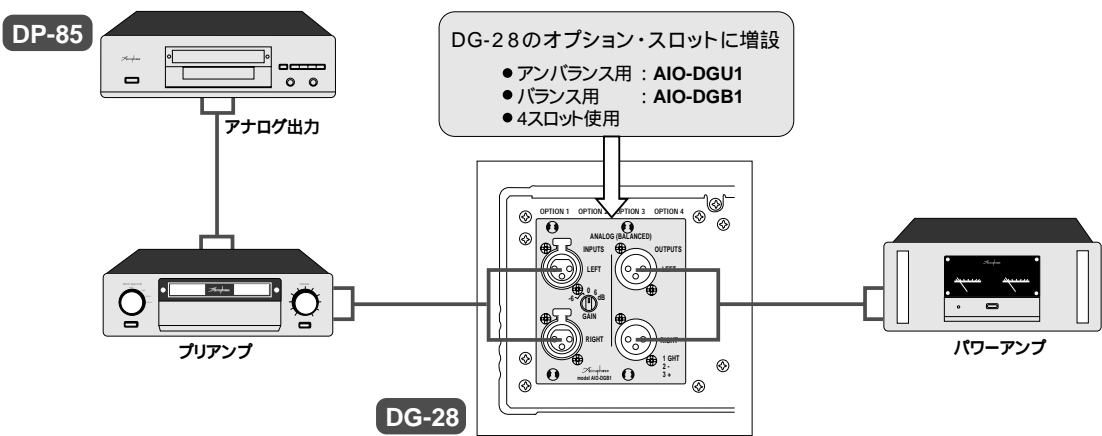
EXT DSP 消灯 DG-28の接続 OFF

アナログでの接続例

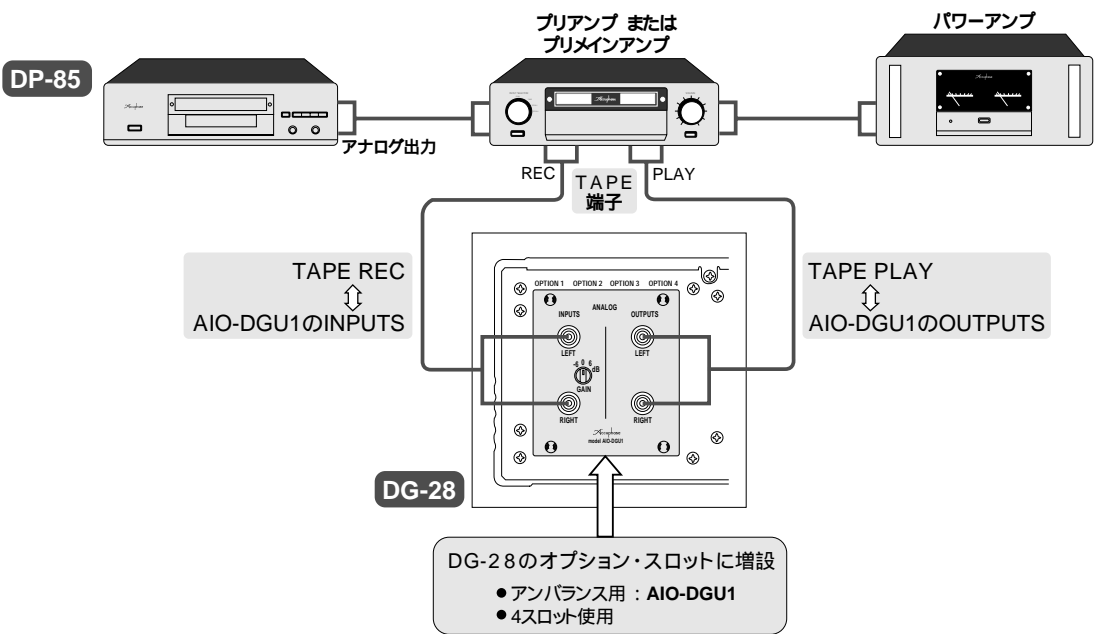
DG-28をアナログ接続して演奏する場合には、「DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード」を使用します。
 ボードの詳細は32ページ参照

注意 DP-85のEXT DSPスロットには、ボードを増設する必要がありません。
 また、EXT DSPの切り替え(ON/OFF)の必要もありません。

接続例 1 ...DG-28をプリアンプとパワーアンプの間に接続します。
 DG-28のオプション・スロットに『DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード』を増設します。



接続例 2 ...プリアンプまたはプリメインアンプのTAPE端子とDG-28を接続します。
 DG-28のオプション・スロットに『DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード』を増設します。



6. DP-85を活用するオプション

DP-85は一体型SACD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とデジタル・プロセッサー部を完全に分離、トランスポートを活用するTransport Outputs端子、プロセッサーを活用できるDigital Inputs端子を装備しています。その他のデジタル入力/録音出力端子はオプション・ボードで対応します。このため本機は、ADB 2インターフェース規格のオプション・スロットを装備しています。このスロットにオプション・ボードを増設すれば、外部デジタル機器の接続が可能になります。豊富なオプションが用意されていますので、用途に応じて増設してください。

空いている任意のスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。
SACDデジタル信号は、著作権保護のため、増設したデジタル入・出力ボード(DIO-OC1等)のOUTPUT端子には、出力されず録音もできません。HS-Linkで出力したSACD/CD信号もデジタル録音はできません。
DC-330、DC-300、DP-75V、DG-28、DF-35等に使用している、オプション・ボードと共通で使用できます。

*表示価格は税別です。

オプション・ボードのサンプリング周波数対応状況

デジタル・ボードの種類	最大48kHz	最大96kHz
HPCコアキシャル入力ボード DI-BNC1		
HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1		
デジタル入・出力ボード DIO-OC1		
AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1	IN	OUT
HS-Link入力ボード DI2-HS1	●最大192kHz	
HS-Link出力ボード DO2-HS1	●2.8224MHz/1bitのDSD信号	
DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1	●最大192kHz	

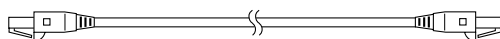
: 対応可
x : 対応不可

HS-Linkケーブル(1.5m) HDL-15

希望小売価格 10,000円

HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送するケーブルです。
HS-Link(RJ-45)コネクターの装備が必要です。

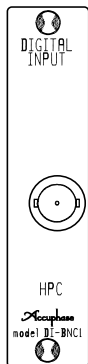
シールド付ツイスト・ペアー8芯OFCケーブル(TIA/EIA-568A CAT.5)
3m, 5m, 7.5m, 10m用も用意しています。



HPCコアキシャル入力ボード

DI-BNC1

希望小売価格 30,000円



75 のBNCコネクター付同軸ケーブルを接続します。

内部は、オプトアイソレーターによって入力と波形成形回路を完全分離しています。

保証特性、適合規格

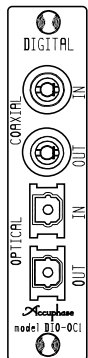
入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入力 : 0.5Vp-p 75

デジタル入・出力ボード

DIO-OC1

希望小売価格 40,000円



同軸、光ファイバーの入・出力端子を装備、2系統の入・出力信号を接続することができます。

接続

“ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”

“ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

COAXIAL:75 同軸ケーブルで接続

OPTICAL:トスリンク光ファイバーで接続

保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入・出力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75

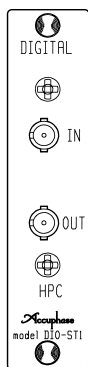
OPTICAL 光入力 - 27 ~ - 15dBm

光出力 - 21 ~ - 15dBm

HPCオプティカル入・出力ボード

DIO-ST1

希望小売価格 50,000円



HPCオプティカル入・出力端子で、STタイプの光リンク・コネクターを装備している機器と接続します。

この端子は、150M bps伝送能力を持つ超高速リンクを使用しています。

接続

“ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”

“ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*STは、AT&T社の登録商標です。

*HPC光ファイバー(HLG-10等)は、当社で別売しています。

保証特性、適合規格

入・出力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

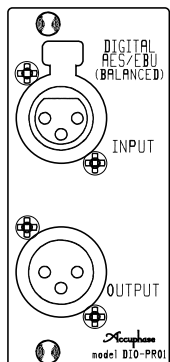
コネクター形状 : STタイプ

入力レベル : 光入力 - 30 ~ - 10dBm

出力レベル : 光出力 - 19 ~ - 14dBm

AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1

希望小売価格 60,000円



AES/EBU(業務用デジタル規格)に対応した、入・出力XLRコネクタを装備しています。この規格のコネクタを装備しているデジタル機器の入力やデジタル・レコーダを接続、録音・再生することができます。

接続 “ INPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
 “ OUTPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)は、当社で別売しています。

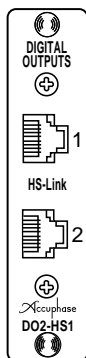
保証性能、適合規格

入出力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠
 デジタル入力 : 0.5V p-p min 250
 デジタル出力 : 3.0V p-p 110

HS-Link出力ボード DO2-HS1

DO2-HS1

希望小売価格 80,000円



HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link出力ボードです。

このボードをDC-330に増設することにより、DP-85のデジタル信号がDC-330を經由してDF-35までデジタル伝送が可能となります。

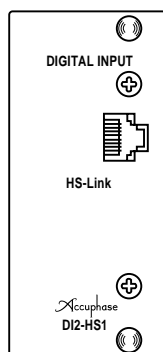
DC-330の『OUTPUTS』スロットにDO2-HS1を増設して、DF-35と接続します。
 DF-35の入力には、HS-Link入力ボード『DI2-HS1』を増設します。
 (接続例は21ページ参照)

DC-330の『OUTPUTS』スロット以外には使用できません。

HS-Link入力ボード DI2-HS1

DI2-HS1

希望小売価格 100,000円



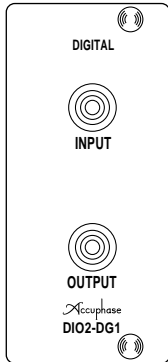
HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link入力ボードです。

DC-330に増設して、DP-85の『TRANSPORT OUTPUTS』と接続する場合に使用します。(接続例 20, 21ページ参照)

DP-85、DP-75V、DC-330等のオプションスロットに増設して、DP-100を接続する場合に使用します。(接続例 23ページ参照)

専用のHS-Linkケーブルで接続します。

DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 希望小売価格 100,000円



SACDなどサンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号に対応し、DG-28をデジタル接続して音場補正することができます。

DP-85、DC-330などの「EXT DSP」スロットに増設して、DG-28をデジタル接続します。

*2スロット使用するため、左隣のOPTION 3が空いていないと使用できません。

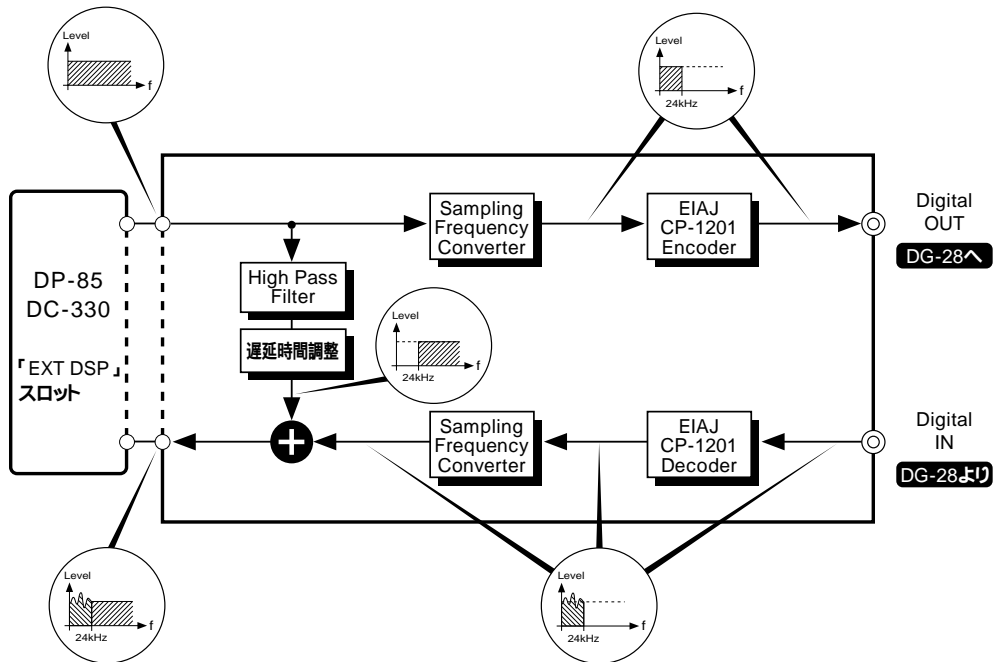
*75 同軸デジタルケーブルで接続します。

接続例は25, 26ページ参照

DIO2-DG1に入った広帯域ハイサンプリング・デジタル信号は、サンプリング周波数(48kHzまたは44.1kHz)に変換して、24kHzまたは22.05kHzまでの可聴帯域成分だけをDG-28に送りイコライジングします。24kHz(または22.05kHz)以上の成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号と、バイパスした信号をボード内で合成して、DP-85等にデジタル信号で渡します。

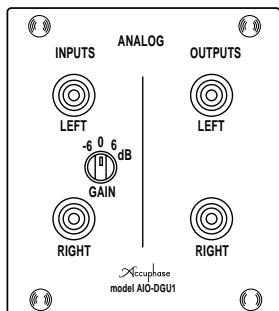
注意

Digital OUT端子の信号はCD-R, MD, DATなどの録音用として使用できません。



DIO2-DG1のブロック・ダイアグラム

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGU1 希望小売価格 90,000円

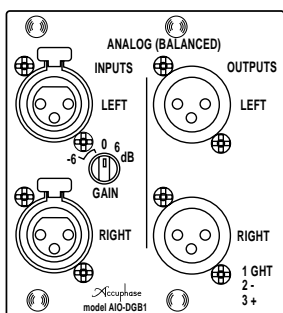


DG-28をアナログ接続で、サンプリング周波数48kHzを超えるソースを演奏する場合に使用します。

DG-28のオプション・スロットに増設(4スロット使用)します。
アンバランス接続用です。

RCAピンジャック付オーディオ・ケーブル
別売: SL-15G等

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGB1 希望小売価格 100,000円



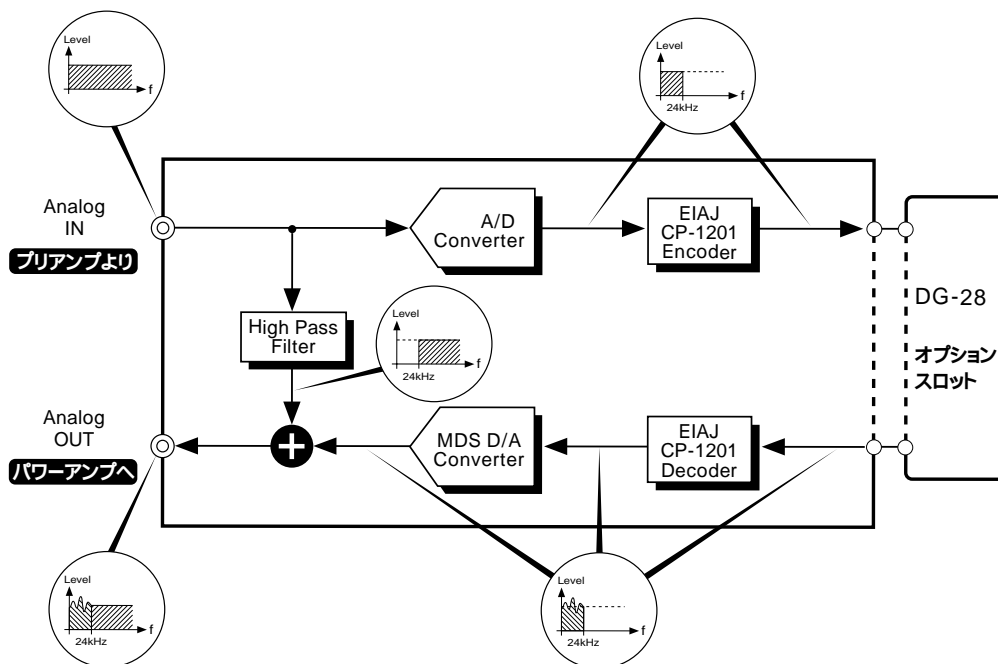
DG-28をアナログ接続で、サンプリング周波数48kHzを超えるソースを演奏する場合に使用します。

DG-28のオプション・スロットに増設(4スロット使用)します。
バランス接続用です。

バランス用オーディオ・ケーブル
別売: SLC-15等

接続例は27ページ参照

プリアンプからAIO-DGU1/AIO-DGB1に入力したアナログ信号は、高精度24bit A/Dコンバーターでサンプリング周波数48kHzのデジタル信号に変換され、DG-28に送りイコライジングします。24kHz以上のアナログ成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号は、MDS方式高精度24bitD/Aコンバーターでアナログ信号に変換され、24kHz以上のバイパスした信号とボード内で合成して、パワーアンプに出力します。



AIO-DGU1、AIO-DGB1のブロック・ダイアグラム

オプションの取り付け方法

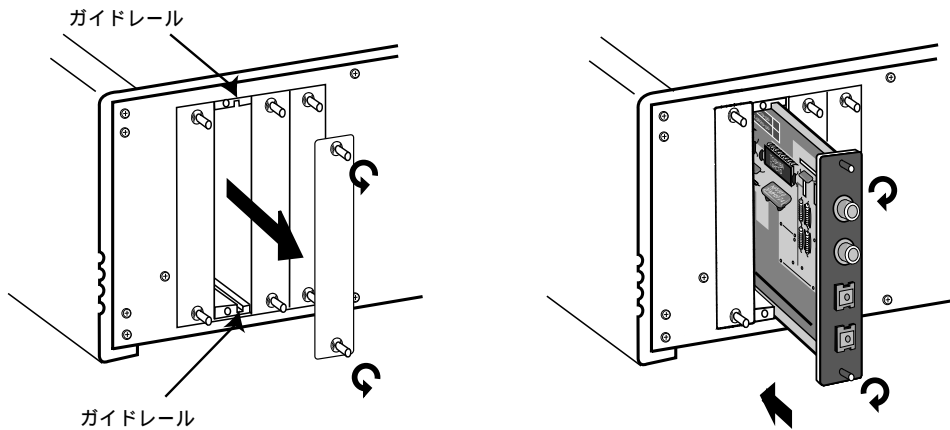
本体の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

2スロット使用するボードの場合は、2枚はずします。

スロット内の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずDP-85の電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らないでください。静電気で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締めてください。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となります。

7. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC 28

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-28を使うと、離れたところからDP-85の機能をコントロールすることができます。

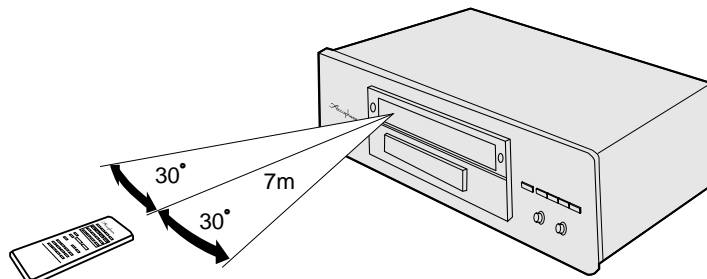
(機能の詳細は2ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の④リモート・センサーに向けて、④の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

⚠️ 注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス) ⊖(マイナス)を正しく合わせる。

新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。

種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

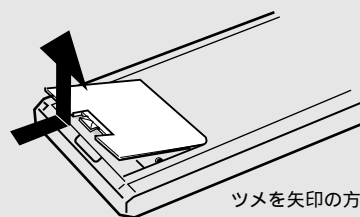
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

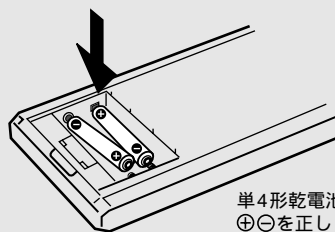
⚠️ 警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

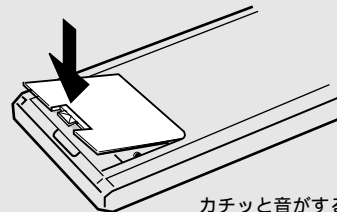
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押しして蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕⊖を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

8. 保証特性

[保証特性はEIAJ測定法CP-2402に準ずる]
 [測定用ディスク:PHILIPS 3122-783-00632]

トランスポート部

適合ディスク

2チャンネルSuper Audio CD
 CD

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

SACD用: 650nm
 CD用: 780nm

デジタル出力

HS-Link コネクタ形状 : RJ-45
 適合ケーブル : HS-Link専用ケーブル
 COAXIAL フォーマット : EIAJ CP-1201準拠

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

COAXIAL フォーマット: EIAJ CP-1201/AES3準拠
 OPTICAL フォーマット: EIAJ CP-1201準拠
 サンプリング周波数 32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz
 (各16~24bit 2ch PCM)
 [オプション・ボードにて対応]
 176.4kHz, 192kHz(各24bit 2ch PCM)
 2.8224MHz (1bit 2ch DSD)

D/Aコンバーター

24ビット MDS plus方式

周波数特性

0.5~50,000Hz +0, -3dB

全高調波ひずみ率

0.0008% (20~20,000Hz間)

S/N

116dB

ダイナミックレンジ

112dB(24bit入力, LPF:OFF)

チャンネル・セパレーション

108dB(20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50 平衡 XLRタイプ
 UNBALANCED : 2.5V 50 RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0~-60dB, 1dBステップ(デジタル方式)

全体

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

25W

最大外形寸法

幅475mm × 高さ150mm × 奥行397mm

質量

19.2kg

付属リモート・コマンドー RC-28

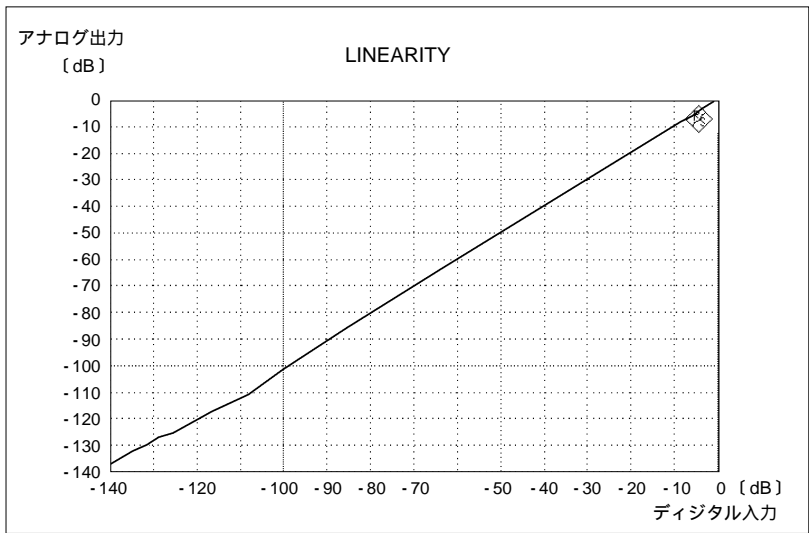
リモコン方式 : 赤外線パルス方式
 電源 : 単4形乾電池2個使用
 最大外形寸法 : 66mm×175mm×20mm
 質量 : 220g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

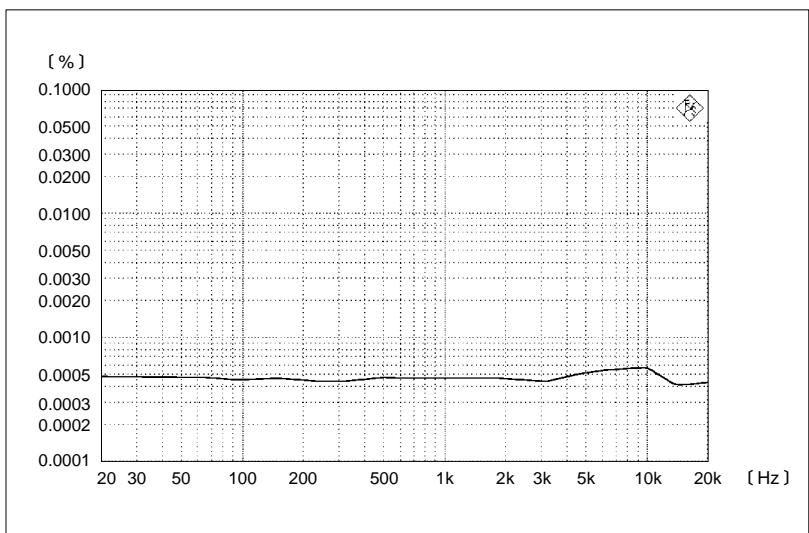
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

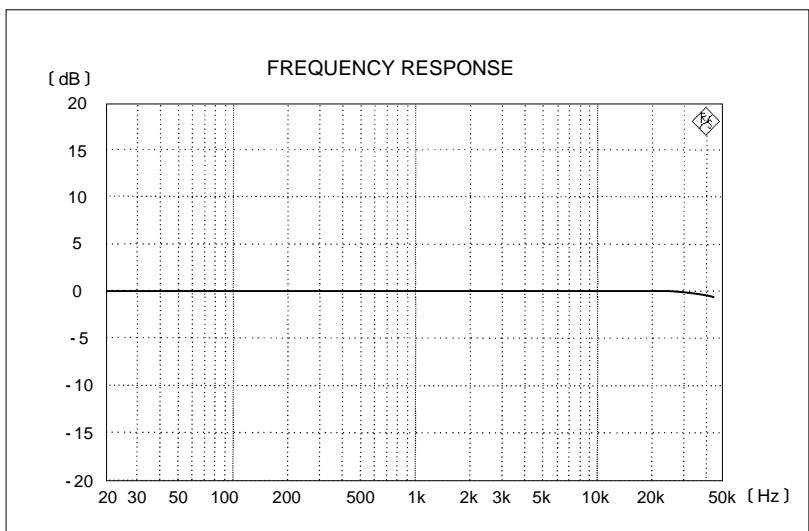
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力 / アナログ出力)

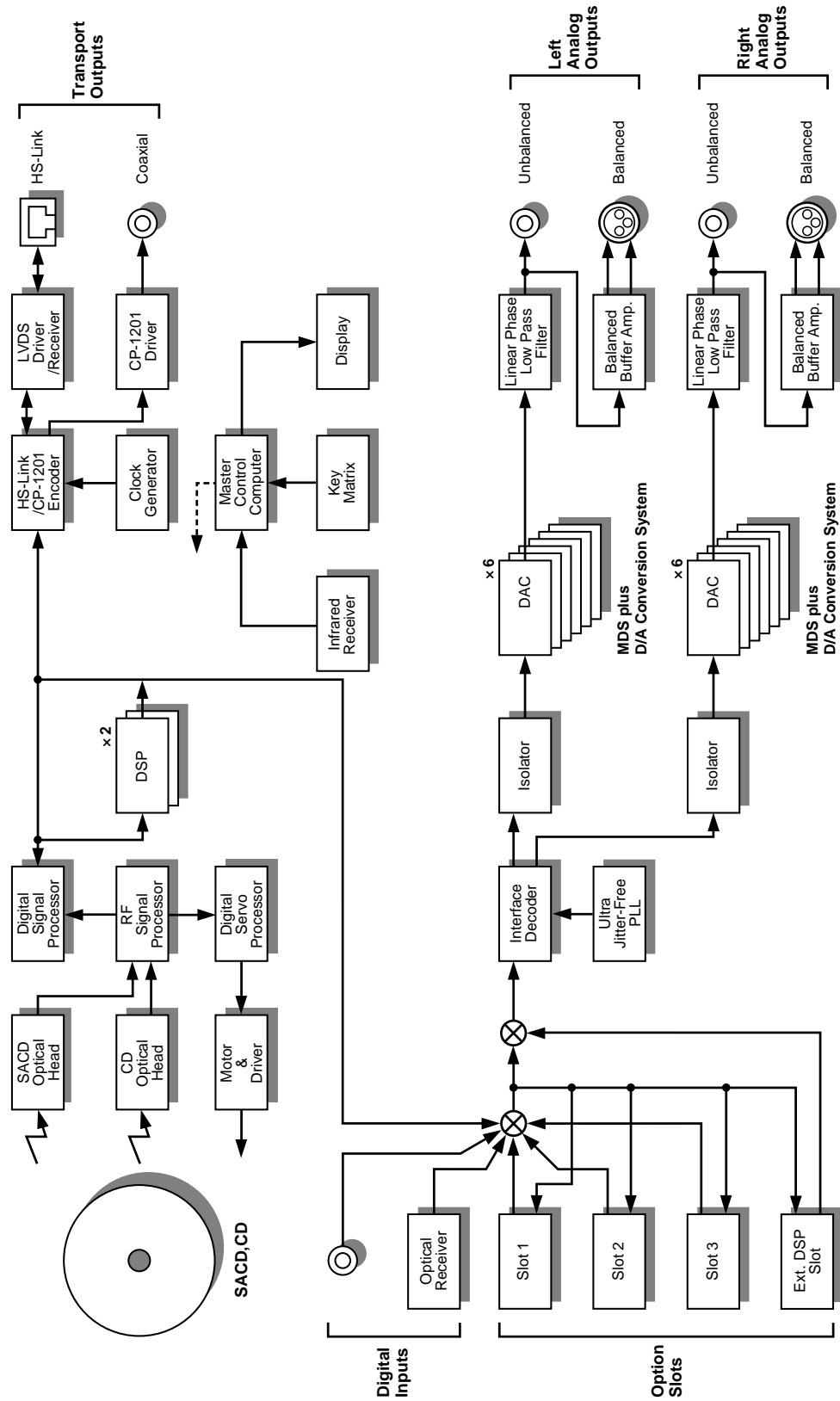


全高調波ひずみ率(雑音を含む) /
周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意

：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

演奏が始まらない

ディスクが正常に装着されていますか。
低温時であれば、結露の可能性もあります。(4ページ参照)
SACD/CDプレーヤー動作ですか。(10ページ参照)
本機で演奏できるディスクですか。(5ページ参照)

音がでない、またはレベルが低い

入力セレクターを確認します。
出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
リモート・コマンダーのOUTPUT LEVELボタンで出力レベルを確認します。
EXT DSPスロットに増設したボードに機器が接続されていない時、または信号をロックしない時は、INPUT SELECTORを押してONにすると、アナログ出力は途切れます。
(25ページ)
EXT DSPスロットにDIO2-DG1以外のボード(DIO-OC1等)を増設した場合、INPUT SELECTORを押してONにすると、SACDなど48kHzを超える信号はロックしません。
(25ページ)

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
トスリンク光ファイバーはEIAJ規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

出力コードを左右入れ替えます。
同じ側から音がでない……アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる……本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
新しい電池に交換してみましょう。
受光部付近に障害物はありませんか。

外部接続機器の出力がない

プロセッサー動作ですか。……入力セレクターを確認します。
選択した入力信号のロックはされていますか。(22ページ参照)
HS-Link、光ファイバー、同軸それぞれ接続したケーブルをお確かめください。

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。
 Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX045(901)8995

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)
 モデル名、シリアル番号 ご住所、氏名、電話番号
 ご購入日、ご購入店 故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 14 10

〒225 8508 TEL(045)901 2771(代)